各種社會問題之研究

滿洲之社會

十二月號

第參卷第四號

滿洲社會事業研究會

南滿洲鐵道株式會社

鐵道

營業哩數（滿洲線 六八六哩 朝鮮線 一、一二二哩）

當社線主要驛と內地支那鐵道主要驛と鮮滿支間往復、週遊、巡遊のため船車連絡割引の便宜あり

埠頭及倉庫

大連、營口、安東、上海の各地には埠頭の設備と共に一般倉庫業をも營む

直營旅館

朝鮮

京城、朝鮮ホテル

釜山、新義州 停車場ホテル

金剛山、長安寺及避暑ホテル（自六月至十月）溫井里

滿洲

ヤマトホテル

大連、旅順

奉天、長春

大連市外

星ケ浦

本社　滿洲大連市東公園町

支社　東京市麴町區永樂町丸ノ內ビルヂング內

鮮滿案內所（東京支社、大阪、下關）

石炭

撫順炭は各種工業用炭並船焚料炭として燃料界に雄飛し煙臺炭は無煙にして亦諸種の用途に使用せられ滿洲朝鮮は素より海外各地に於て顧客の需要に應ずる準備を有す

電氣及瓦斯

大連撫順に電氣鐵道を又大連、奉天、長春、安東、撫順に電燈事業を經營す

大連、鞍山、撫順、奉天に瓦斯事業を經營す

製鐵所及試驗場

鞍山に製鐵事業を經營し銑鐵をも產す

公主嶺に農事試驗場ありて各種農產物及び緬羊の改良をなす

大連に窯業試驗場を有し優良なる硝子器等を製す

一資本金　壹億圓

一積立金　七千七百五拾萬圓

本店　横濱

支店　東京、大阪、神戸、名古屋、長崎、下關、倫敦、漢堡、里昂、紐育、桑港、羅府、布哇、シドニー、新嘉坡、カルカッタ、シャトル、スウラバヤ、スマラン、ブエノスアイルス、バタビヤ、リオデジャネイロ、西貢、孟買、蘭貢、馬尼剌、香港、上海、漢口、廣東、青島、濟南、天津、京北、牛莊

出張所　(營口)、奉天、開原、長春、哈爾賓、浦鹽斯德

大連市大山通一番地

横濱正金銀行大連支店

電話＝代表番號三一六一番

海關取扱所四七六二番

宿直專用六〇一五番

滿洲之社會＝第參巻第四號（大正十三年十二月發行）

一、資本金參千萬圓

一、一般銀行業務並ニ大連市金庫事務ヲ取扱申候

大連市伊勢町六十九番地

株式會社 滿洲銀行

電話四一二一番

振替貯金大連三三〇番

支店所在地

大連市山縣通、同小崗子、沙河口
金州、普蘭店、貔子窩、瓦房店、鞍山、奉天、
奉天小西關、撫順、本溪湖、安東縣、安東縣
興隆街、新義州、鐵嶺、公主嶺、長春、吉林

右ノ外内地、朝鮮、滿洲各樞要ノ地ニ爲替取引先有之候

火災 海上 運送

保險

明治火災保險株式會社

千代田火災保險株式會社

東京火災保險株式會社

東京海上火災保險株式會社

日本火災保險株式會社

神戸海上運送火災保險株式會社

共同火災保險株式會社

大阪海上火災保險株式會社

横濱火災海上保險株式會社

大正海上火災保險株式會社

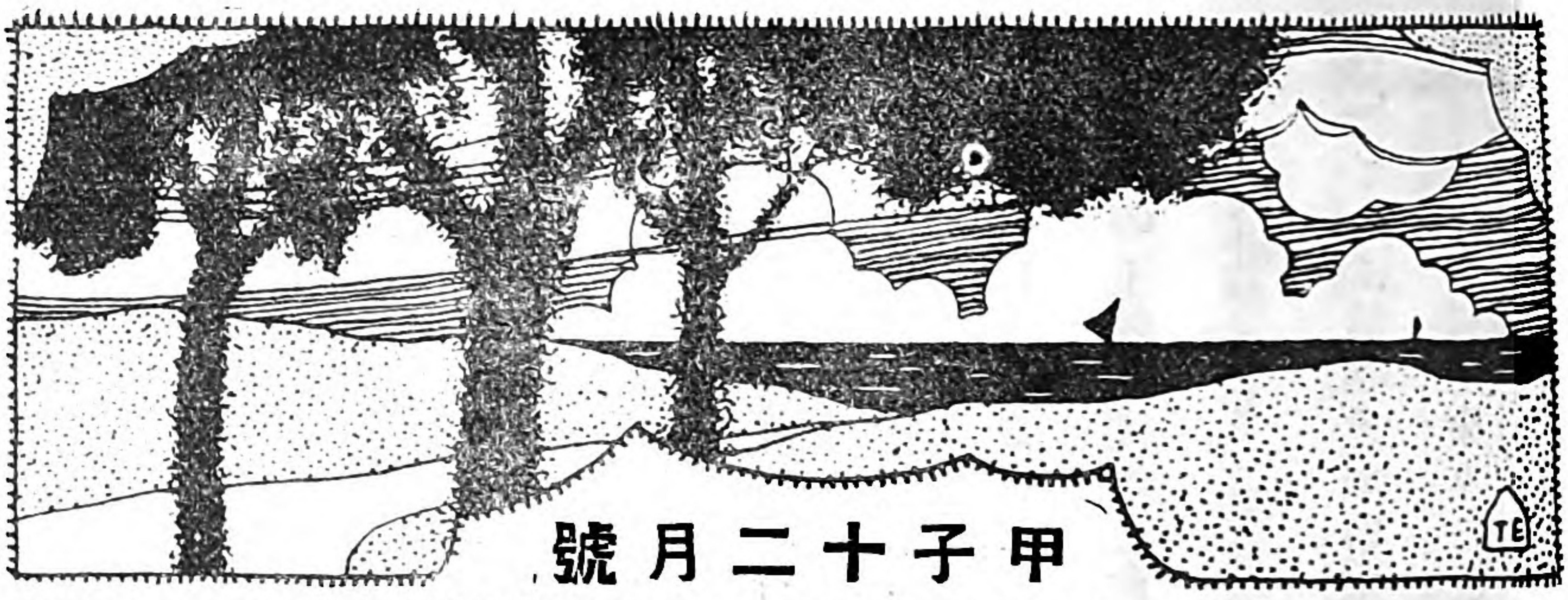
代理店

三井物産株式會社

大連支店

大連市山縣通一八二號地

電話 代表番號七一〇一番

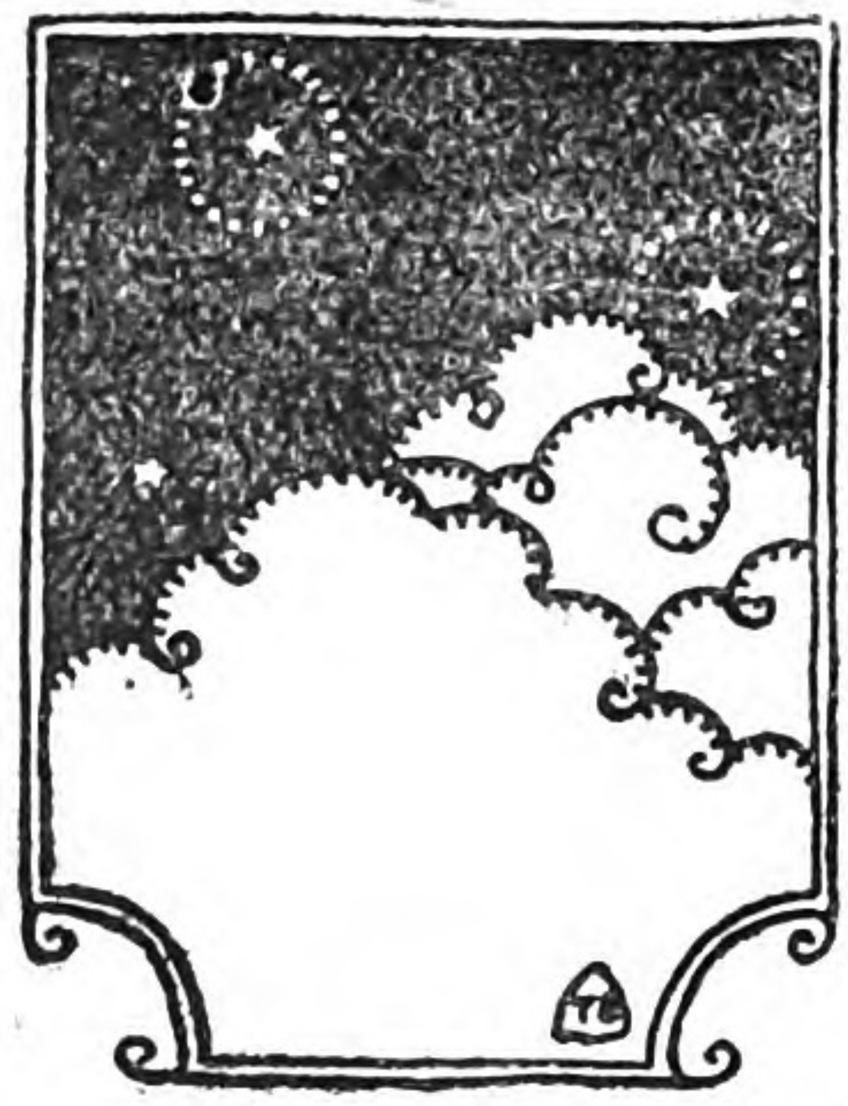


社會の荒涼

冬が來た。木の葉は落ち、樹といふ樹は悉く骨を出し、北風は怒號し、寒氣は加はり、滿目轉た蕭條となつた。滿洲の冬は殊に荒涼だ。不景氣風といふ厭な風の吹きしきる今日の人間社會は丁度此の冬の光景と同樣だ。花の見るべきなく、香の尋ぬべきなく、誰も彼も寒い顏をして居る。貧乏は寒いものだと云ふが、我々の社會、殊に滿洲の社會は貧乏神に見舞はれて寒いこと此上もない。風邪をひいた個人のやうに社會は惡寒に身震ひして居る。

社會が冬のやうに荒涼となつた爲め、人の心も荒みがちで、其の人心の荒怠から厭な事ばかり生まれる。今一々それを指摘する遑はないが、此の不景氣に猶ほ贅澤な眞似をする者があるのは、反射心理とやらで、社會の荒涼に對する一種の反感作用かも知れない。『莫迦に寒いから一杯飲まう』といつたやうな所が見ゐる。困つたものだ。不景氣になつてから凡そ五たび四季を送り迎ゐたが、人間社會は依然として冬景色、荒涼たり蕭條たりである。

併し自然の冬が安息の季、準備の季、修養の季であるが如く、人間社會の冬も此間に何等か會得した所があるだらう。愚痴つたり、怨んだり、悲しんだりして、唯寒い〳〵と云つて、水ッ涕ばかり垂らして居るやうな事では困る。寒さに負けて何も彼も萎縮してしまふ樣なことでは駄目だ。上ッ調子の附元氣では可かんが、斯ういふ時には腹の底から元氣を揮ひ起し、そして不景氣を擊退する位の勇氣があつて欲しい。諸君大いに振ひ給ゐと云爾。



皇國の社會政策

山田芙峰

社會政策といふ言葉は比較的新らしい近代語で、我國で此の言葉が廣く一般に用ひられる樣になつたのは最近のことであるが、其の實體はずつと昔から有つたのだ。他國のことは暫く之を措き、我國にも上古時代から種々の社會政策が行はれ、或は貧富の懸隔を改め樣とし、或は上下の乖離を矯め樣としたことは、國史に徵して明かに認め得らるゝ所である。殊に最も注意を要する點は、天皇親政の王朝時代、別して其の大化革新時代に今日謂ふところの社會政策が行はれたと云ふ事である。

今此の王朝時代の社會政策を述ぶるに先だち社會政策の意義を一言して置きたい。私は昨年の本誌三月號に『近代社會政策の眞意義』と題して聊か卑見の存する所を述べ、次いで本年の二月號に『社會政策の根本觀念』といふ協調會理事永井亨氏の說を揭載して置いたが、要するに社會政策とは現存社會の不合理な點を凡ゆる方法を以て徐々に改造しやうと云ふのであつて、社會主義その物とは固より同一でない。社會政策の基調は、社會連帶責任觀念といふ共同義務的思想をその出發點とし、個人主義、營利主義、自由主義、平等主

義の一方に傾かず、正義及び人道に則りて個人と社會の調和を圖り、政治、經濟、法律、學問、文藝、其他一切の根柢に歸一思想と協調思想を横たへ、物質上にも精神上にも一般民衆の生存的將た生活的福利を増進しやうと云ふに在る。故に社會政策は資本主義にも共産主義にも賛成しない。

さて我が上古王朝時代に行はれた社會政策とは何んなもので有つたかと云ふに、皇室は民の父母、民は皇室の赤子、義は君臣、情は父子といふ我が特有の國體を基として、貧富の調節と民衆の福祉を圖られた事である。上古とは蘇我氏の氏族政治から天皇親政の大化革新の時までゞ、其頃既に貧富の間に懸隔のあつた事は、孝徳天皇の詔の中に『割國縣山海林野地田、以爲己財爭戰不已、或者兼併數萬頃田、或者全無容針小地』と仰せられてあるに看ても明白だ。當時の權臣今でいふ特權階級の蘇我氏と其の一族、即ち大臣(オホオミ)大連(オホムラジ)伴造(トモノミヤツコ)國造(クニノミヤツコ)等が土地を兼併して私福を擅にし、民の收むる租税を中飽し、私の事に民を使役して、專横到らなかつた結果は、遂に貧富の懸隔を生じ、皇室と國民との間に障壁を築き、皇室の赤子たる國民の多くを貧苦に泣かしめたのである。此の時は農業時代であつたから、土地の兼併は主として農村に行はれ、貧苦に泣いた國民は今日の謂ゆる水呑百姓の如きものであつた。蘇我氏とその一族とが權勢を挾んで斯樣な惡政を行つた事は、第一天皇に對し奉つて畏れ多き次第なので、推古天皇の皇太子で同時に攝政であらせられた聖徳太子は、その御制定になつた憲法十七條の第十二條に於て『國非二君、民無兩主、率土兆民以王爲主、所任官司皆是王臣、何敢與公賦斂百姓』と規定して蘇我氏を戒められ、同時に寺院中の四天

王寺に療病、施藥、悲田、敬田の四院を設けられて貧困者病弱者のために同情深き種々の施設を講ぜられた此等は今日の救濟的社會事業でつまり社會政策を行はれたのである。

之を酵母として大化革新の時には土地公有といふ社會主義的政策が斷行された。大化の革新を行はせられたのは天智天皇で、天皇は中大兄皇子と稱せられた時に藤原鎌足の力を藉りて權臣入鹿を誅し、蘇我氏の氏族政治を破られた御方であるから、御卽位と同時に大政を親裁せられ、中央に神祇官と太政官を置きて祭政一致の中央集權制度を樹て、その太政官の下に八省を置き、百官を配し、全國を凡そ六十餘國六百餘郡に分ち、從來の國造(クミノミヤツコ)郡主(アカタヌシ)稻置(イナギ)に代へて里に里長、郡に郡長、國に國司を置き、封建制度を改めて郡縣制度させられたが、同時に時の權門勢家といはれた閥族等の私有地を官沒して土地公有といふ大英斷を行はせられたのである。是れは洵に立派な社會主義的政策だ。

此の土地公有の社會主義的政策は班田收受の法となつて全國に行はれた。班田收受の法は唐の班田制に則つて而も一新機軸を出したもので、男女共に六歳に達すれば、男には二段の田、女には其の三分の一を支給し之を口分田と稱し、六年目毎に一回宛之を行つたのである。此の班田收受の法は、其後國守の中に私曲を營む者や百姓の中に詐術を弄する者があつた爲め、漸次崩壞を來たし、折角の土地公有も徒爾に歸して了つたが、併し此の時代ほど我が王政の面目を發揮した時はなかつた。大化革新の詔の中には『民を貧苦に致さしむる勿れ』とか『劣弱を兼併すること勿れ』とかの御言葉があつて、一面權臣の專橫を制し、他面貧富の懸

隔を矯め、民百姓をして一様に生活安を得せしむると共に、『民は國の本』『民は國の大御寶』であるとして深く愛まれたのである。善政とは此くの如きものであらねばならぬ。

王政の面目を最も能く發揮した大化の革新は、氏族政治の專横を制し、皇室と國民との中間に築かれた障壁を撤去し、其の間の關係を直接的にし、義は君臣、情は父子といふ國體の精華を發揚した。聖德太子は此の大義を闡明せられ、天智天皇は此の大義を具體化せられたのであるが、其後復た藤原氏が權臣となり、佛敎が儒學を凌いで隆昌を極めた時、僧道鏡の如き逆徒を出し、茲に忠臣和氣清麿の躍出を見るに至つたけれども、當時の僧侶社會も亦一種の特權階級となり、寺領といふ大きな土地を占有して我意を張り、遂に宇多天皇をして『雙六の賽と、加茂川の水と、叡山の僧徒ばかりは自由にならない』との嘆聲を發せしめられた程、それ程に當時の僧侶は橫暴であつたのだ。藤原氏の氏族政治が亡び、攝關家の公卿が漸く遊惰安逸に流れた時、羅馬の文明が爛熟して蠻族ゴールの爲めに斃れたと同樣、當時各地方に土着して實力を養ひ弓馬の術を練つた地主の中產階級に國守と浪人とが結び附いて、其處に武士なるものが生まれ、斯くして源平時代となり、源賴朝が覇府を鎌倉に開くに迨んで、政權武門に歸し、氏族政治が武門政治となり、更に封建制度を樹つるに至つたが、這は政治的變化であつたと同時に社會的變革であつたのだ。

此間が中古時代で、それから源氏と北條氏との鎌倉覇府時代となり、其の北條氏は上に對して不埒をしたけれども、下に向つては比較的善政を施し、社會政策のやうな事も行つた。泰時、時賴、時宗の如きは民衆

の爲めに相當の善政を擧げた。然るにそれが足利氏の室町時代となるや、土一揆即ち百姓一揆が起り、一方商工業の進歩と共に、その一揆が金貸業を營める土倉又は酒屋を襲ふて暴力制裁を加へた。此の時の社會は一種の資本主義的となり、資本家であつた土倉や酒屋が高利の金を農民に貸してマルクスの謂ゆる搾取を事とした爲め、竟に農民の反抗を招いだのであるが、文明十七、八年山城國に起つた土一揆の如きは、國中の十五、六歲より六十歲までのものを召集し、之を結合して特殊の自治政治を行ひ、武士、僧侶、商人等に向つて特權打破の要求を提出し、首尾好く其の要求を貫徹した。此の折には足利氏の勢威漸く衰ね、將軍の實權が管領に移り、管領の力が家老に移り、更にそれが實際政治の衝に當つてゐた諸國の守護代に移つたのであつて、謂ゆる下尅上の時であつたから、斯樣に優勢な百姓一揆も起つたのであるが、之れは今日の社會運動であり、隨つてデモンストレーションなども行はれたことゝ察せられる。

足利氏の末葉時代は、政治の崩壞と共に社會も甚だしく混亂し、英傑の士各地に競ひ起りて群雄割據の戰國時代を現出し、愛知郡中村の土百姓の間から此の群雄を駕馭した豐臣秀吉といふ大英靈漢を輩出した。大なる番狂せであつた。それ程に當時の社會は亂れて居たのだ。織田氏から豐臣氏時代となり、更に轉じて德川氏の江戶幕府時代となつてから、士農商工の社會的階級別を嚴格にし、侍即ち武士を最高級者とし、次いで神官、僧侶、百姓、町人、穢多、非人といふ風に別けた結果は、武士の跋扈專橫を馴致し、切捨御免が濫用され、下の方に段々不平の氣が漲つて來た。寬永四年の天草騷動や慶安四年の由井正雪の陰謀は純然たる

政治的のものであつたが、其後大阪に起つた大鹽平八郎の亂は、時の有司に楯を突いた點において、多少政治的の意味も含まれゐた樣に思はれるけれども、實は一種の富豪征伐であつて、英國のチャーテスト時代に起つた資本家に對する暴力制裁にやゝ類似した所があり、隨つて社會的經濟的の意味の方がヨリ多く含まれて居たと看るべきであらう。江戸時代には此外猶ほ種々の土一揆が起り、佐倉宗五郎のやうな義人正人を出し、武家の跋扈を制するが爲めに町奴、俠客、長脇差のやうなものも出來、町人一揆なども起り、表面は平穩であつたけれども裏面は案外に渦を卷いてゐた。謂ゆる黑船の來航と共に、約三百年の江戸幕府政治が倒れ、王政こゝに昔に復し、鎌倉覇府以來凡そ六百七十年間旣墜の大權が回復されたのは、洵に理由ある事で斯くして明治の盛世を出現したのも、亦固より怪むべき事でない。

併し德川氏の江戸時代にも多少の社會政策は行はれた。それは固より仁慈的、恩惠的、救濟的のものではあつたが、例へば無宿者の救濟、お救ひ小屋、懲治授産場などは今日の謂ゆる社會施設で、寬政元年江戸の佃島に設けられた人足寄場の如きも立派な社會事業であつた。德川氏時代にも我國は瑞穗の國の農業國であつて、武士の祿は石を以て與へられ、今日の如き貨幣主義的資本制度は成立つて居なかつたけれども、一方商工業の發達と共に資本主義の弊は既に芽生ゐてゐたと觀るべきであらう。

王政復古後の明治時代は、上古の王朝時代が支那と印度の文物制度を輸入したやうに、專ら歐洲の文化を輸入し、主として之れを模倣した爲め、併せて其の弊をも輸入した。資本主義的經濟制度より生ずる社會問

題の紛糾はその重なるものである。江戸幕府時代に商工業の發達と共に資本主義の弊は既に芽生ゐてゐたと觀るべきであるが、明治時代に歐洲の資本主義的經濟制度をそつくり其のまゝ採用した爲め、商工業及び貿易は發達したけれども、歐洲諸國におけると同樣、我國にも勞働問題を發生し、勞資間の階級爭鬪が次第に激しくなつて來た。資本主義的經濟制度は英國の產業革命以後に起つたもので、科學の進步、機械器具の發明運輸交通機關の發達はこれを助長した力であり、戶內工業が工場工業、手工業が機械工業となり、隨つて大量生產となり、その生產力の增進は富力の增加となつたが、此の經濟組織の根柢が個人主義、自由放任主義營利主義であるため、其の一面において富の分配を甚だしく不平均にし、貧富の懸隔を增大し、富豪やキヤプテン●オブ●インダストリー等が封建時代の武士に代つて社會上に威力を揮ふ一方に、昔の農奴や黑奴に似て非なるところの勞働者といふ大多數の人群を作るに至つた。勞働問題が起り、勞資間の階級爭鬪が激しくなり、社會主義や、共產主義や、サンジガリズムなどが擡頭して來たのは之が爲である。此の經濟上から起つた社會的動搖は大正時代に入つて我國にも波紋を大きくして來た。

資本主義的商工業の發達は、一種のメルカンチリズムとなり、都市に人口を集中せしむる爲め、農村の衰頽を來たし、昔の土一揆とは異なつた小作爭議を頻發せしめ、それが又社會上の一問題となつた。瑞穗の國の面影は今や見るべくもない。此外尙ほ水平運動なるものも起り、智識階級、中產階級の失業者より生ずる社會問題も等閑に附し難くなつて來た。爰に於てか、近代の社會政策は仁慈、恩惠、救濟といふ消極方面の

のみならず、進んで積極的に保護、善導、教化といふ方面に向つて適切なる諸種の施設を講せねばならぬ事になつた。時代の變化と共に社會政策も此の如く變化せざるを得ないのであるが、我國の社會政策は、飽くまでも皇道に則り、大中至正の道に立ち、義は君臣、情は父子といふ皇室と國民との關係を重んじ、正義と人道を基調として上下の和睦、貧富の調節、勞資の協調に努め、若し特權を恃んで皇室と國民との間に障壁を築く者があつたら、合理的に之れを排除し、以て民衆の生活安を圖り、更にそれを推擴して一般人類社會の福祉を増進しなければならぬ。何事も科學的、主智的、契約的、權利義務的となつた今日、その必然の結果として、社會の全面に人類愛の露はれが鈍くなつて來たが、之れは我が國體上最も憂ふべき事であるから皇國の社會政策は殊にその救治と改善に重きを措かなければならぬ。上古時代の大化の革新は、能く我が王政の面目を發揮し、國體の精華を發揚したが、近代はそれ以上の革新を要するのだ。

終りに臨んで一言したきは民衆主義と民主々義との區別である。デモクラシーは一八三一年白耳義が其の憲法に『主權は人民に在り』と規定したのが抑々の始まりだが、之れは民主々義であつて、此の主義は我が國體及び政體と相容れない。支那の『日出でゝ耕し、日入つて憩ふ、帝力吾に於て何かあらむ』と云つた民衆主義も、共和民國となつた現代支那の憲法に現はれた民衆主義も、實は民主々義であるから、之れも我が國體及び政體と相容れない。故に我國のデモクラシーは皇室と國民を一體として情義的に一般民衆の福利を圖るといふ意味であらねばならぬ。何うか誤解のない樣にしたい。

失業問題

◆失業なるものは昔からあつた事で江戸幕府開設當初の諸國の浪人の如き失業者であつたのだ◆それが近代になつて殊に多くなつたのは人口増加の故でもあるが都市工業の一盛一衰が甚しくなつたからである◆不景氣が益々濃厚となり凡ゆる事業が整理緊縮を事とする場合に失業者が多くなるのも當然で我國の現狀がそれだ◆何でも東京ばかりでも二十餘萬人からの失業者があるさうだから日本全國の失業者の數は太したものだらうと思はれる◆それに政府の行政財政整理でお拂箱となる官吏もあるし政府事業の中止に依つて間接に生ずる民間各工場あたりの失業者も相當にあらうと云ふものだ◆此等失業者の内には筋肉勞働者の外に智識階級者も含まれて居るから此の複雑な失業問題を解決するのは容易な業でない◆日本内地の全國に亘つての職業需給關係を調べて見ると供給過超の著しいものは機械器具、電氣瓦斯、金屬工業、店員及び商店雜務、鐵道、電鐵及び自動車等の各從業員で通信從事員と運送業從務員とだけは需要の方が多い◆女中、乳母、子守などは求人の方が多いが夫れに引換へて書生、給仕、番人、小使などは求職の方が多いさうだ◆職業に依つて此くの如く需給の相違はあるが概して供給過超即ち求職口が多くて求人口が少いのだから『我に職と而して食を與へよ』の失業者が多くなつて來るのは蓋し當然の成行である◆失業問題に對する方策は歐洲諸國でも色々と骨を折つて居る事柄で本誌に掲載した大野社會局書記の『英國の失業問題』を讀んでもそれが能く分る◆絶對多數で今度復た天下を取つた英國の保守黨は此の失業問題を海外貿易の伸暢や對外商權の擴張で解決する見込らしい◆職業紹介所は失業問題を解決する一箇社會上の重要機關だが失業者が雪崩れを打つて出て來る場合には此の機關の力ばかりで複雑な失業問題を遺憾なく解決することは能きない◆政府では今度職業紹介所法施行規則に改正を加へ全國百六十八ヶ所の各職業紹介所に其の土地から資本家代表と勞働者代表とを選出しそれに依つて顧問委員會なるものを新設し勞資協調によつて求人求職の道を拓くさうだ◆それも可からうが智識階級を含めた今日の失業問題を左樣な手段のみで解決されると思ふのは少しく迂遠だ◆やはり結局は

公益事業なり若くは新らしい生産事業を興して職を失つた者に職を與ねる樣にするのが根本的救治策である◆整理可なり緊縮も亦可なりだが此の消極方面にばかりこだばり付いて居ては益々失業者を多くし益々不景氣を大きくし益々息苦しくなるばかりだ◆滿洲の如きは施すに道を以てすれば幾らでも投資企業の餘地があり從つて新たに生産業を興すことも能きるのだから此の方面に一ッ大きな捌口を作るべしだ◆尤も筋肉勞働者の多數を滿洲に入込ませることは望めないが精神勞働者たる智識階級の者なら相當に入込ませる餘地があり入込ますべきでもある◆處が滿洲の現狀も恐しい不景氣で一體に人心が萎縮し切つて居るので今のところは何うにも斯うにも仕樣がない◆滿鐵を除いての他の會社事業や銀行業務は創痍滿身といふ始末だから先づ金融機關の改善こその根本の組織を改めなければ復活再生の見込がない◆滿鐵までが緊縮方針を取り非常に大事を取つて居りそして今後新たに社員を採用せぬと云ふ方針だから內地の失業者が滿洲にやつて來ても助かる筈はない◆大連市の職業紹介所に雪崩れ込んで來る內地の失業者には智識階級のものが多いさうだが現狀が此の通りな爲め彼等は滿洲も駄目だなアと失望落膽する◆凡そ働ける腕があり働ける力があつて働く場所のない爲めに餘儀なく遊んで居ると云ふほど不幸な事柄はない◆民衆の多數は凡夫であるから働ける身分で失業のため働けなくなると遂には天を呪ひ世を怨み人をも恨むやうになる◆斯んな處から危險思想が生まれて來るのだ又此の間隙に危險思想の喰ひ込む處もある◆從つて整理とか緊縮とかの一方にのみ眼を附けて之より生ずる失業者といふ犧牲に對して注意を拂はないのは不親切であると共に社會問題である◆恩給かあるとか多少の蓄財があるとか相當の備荒を有つたものは縱令失業しても幾らか喰ひ繫げるだけの餘裕があるだらう◆が職を離れると直ぐ其の日から食ふことに困るやうな身分のものは慘めだそれも獨身ならまだしも妻子を抱ねて路頭に迷ふが如きものに至つては慘の又慘だ◆現代人は何事も社會的に考ねなくては可かん失業問題といふ大きな社會問題に對して冷淡なるものは非人道者である◆一時的救濟は燒石に水と同樣だから公益事業なり生産事業なりを興して失業問題の解決に一面努力して欲しい。



財政難經濟難と勤儉奬勵

內務大臣　若槻禮次郎

昨年の九月一日は我が國民に取つて永劫に忘れ難き一大天殃の紀念日である。此日一日にして十數萬の生靈を殪し數十億の國富が失はれた。其の人命並に國富の損害の莫大なる、實に日清、日露兩戰役の結果を合計したものにも下らない莫大なものであつた。單に我が歴史上に其例を見ざる一大慘事であつたのみならずまた世界を通じての一大慘禍であつて、我が國力に及ぼした影響の如きは之を精査すること殆ど不可能の有樣である。此の天殃に際會して、如何にして帝都を復興し、國力を恢復し、以て國民生活の安定を招徠すると共に、明治以來營々として築き上げたる我國の國際的地位を保持し、列强と伍して耻しからぬ實力を築成すべきかは、朝野、貴賤、上下の別なく我が國民の齊しく憂慮措く能はざる所であつたが、畏れ多くも皇室におかせられては此等の點に就き深く御軫念在らせられ、震災後の昨年十月十日を以て國民精神作興に關する詔書を賜はり、國民に對して其の進むべき指針を昭示し給ふたのである。

詔書に「輓近學術益々開け、人智日に進む。然れども浮華放縱の習漸く萠し、輕佻詭激の風も亦生ず。今に及びて時弊を革めずんば或は前緒を失墜せむことを恐る。況や今次の災禍甚だ大にして、文化の紹復、國力の振興は皆國民の精神に待つをや。是れ實に上下協戮、振作更張の時なり」と仰せられたのは則ち之れが

爲めで、聖慮深遠に感激に勝へず又恐懼に堪へない次第である。國民たるもの深く相誡めて夙夜兢々詔書の御趣旨に副ひ奉らんことを期すべきは言ふまでもない事である。然し乍ら國民精神作興の要は昨秋の大震火災の慘害を恢復する爲めに始めて生じたるものではない。詔書に「輓近學術益々開け、人智日に進む、然れども浮華放縱の習漸く萠し、輕佻詭激の風も亦生ず」とあるが如く、浮華放縱、輕佻詭激の弊風は、實に世界大戰の惡風潮と共に以後我國上下の漫性的疾患となつたのである。

世界戰亂は各國に其の影響を及ぼし、東亞に僻在する我國の如きも、國民生活の物心兩方面に深甚なる影響を受けたのである。戰時中、我國商品の販路は對外的に大いに擴張せられ、外國貿易は常に輸出超過を示したのであつたが、此間我が國民經濟は非常なる活況を呈し、國民の間には自ら成金氣分釀成せられ、奢侈贅澤の風は社會の各方面に橫溢した。然るに戰爭一たび終了を告ぐるや、我國が戰時中獲得したる商品の海外に於ける販路は再び諸外國の爲めに蠶食せられ、戰爭終了の第一年より既に貿易關係は逆調に急轉し、內地產業は萎微不振となり、遂に大正九年には經濟界に一大死落を演出するに至り、爾來產業界は漫性的不景氣に陷つたのであつたが、戰時中に馴致されたる不健全なる奢侈放逸の風潮は容易に收まるべくも見えない他面世界戰爭に胚胎して勃興したる過激なる反社會的思想は、我國に對しても非常なる影響を與へ、思想界は渾沌たる情態を呈し、此間自ら詭激の風潮も湧發するに至つた。

斯の如くにして一面奢侈放縱の風は戰後も依然として變ることなく、他面思想界も靜穩を得るの遑なかりし時に當り、昨年の九月一日我國は突如として振古未曾有の一大天災に襲はるゝに至つたのである。此の天災は一面國民の缺點を曝露したる跡なきに非ざるも他面に於ては我が國民的美所を發揮すべき好機會を與へたのである。卽ち國民精神は此際異常なる緊張を示し、相憐扶助の熱誠溢るゝが如く、國力の全部を擧げて

帝都の救援に向ひ、克く秩序を維持し、救護を完うし、且直ちに復興の善後策に進むことを得せしめたるは實に我が國民精神の强味を遺憾なく發揮したものであつて、諸外國に於ても一齊に驚嘆の聲を放つた所である。然るに此の國民的總努力の緊張情態も近時漸く弛緩の傾きあり、今日に於ては奢侈の風、贅澤の俗、再び震災前に復歸せんとするの徵あるを見るは洵に深憂に堪へざる次第である。

世界戰亂以後我國の社會情態が引續き不健全の情態に在りしことは前陳の通りであるが、此間我國の財政並に經濟は果して斯の如き放逸なる國民生活を許し得べき情態に在つたのであらう乎。こゝに稍々計數的に戰後我國に於ける財政經濟の難局に在ることを說かねばならぬ必要がある。先づ中央の財政に就いて見るに戰時好況時代に膨脹を重ねたる歲計は、財界不況の時代に入るも容易に緊縮することを得ず、大正十三年度實行豫算を以て之を戰前大正二年の歲計に比較するときは、其の歲出は五億三千餘萬圓より十六億一千五百餘萬圓に增加し、約三倍の數字を示して居る。又國債の總額は大正二年度末に於て內國債十億五千四百餘萬圓、外國債十五億二千九百餘萬圓、計二十五億八千四百餘萬圓であつたが、それが本年六月末日には內國債三十一億六千六百餘萬圓、外國債十五億千四百餘萬圓、計四十六億八千餘萬圓となり、約二倍の增加を示して居る。更に進んで地方財政の情態を見るに、大正二年度歲出の三億二千七百餘萬圓は大正十二年度に於て十一億五千四百餘萬圓となり、三倍强の膨脹を示して居る。加ふるに地方債は大正二年度末の三億千六百餘萬圓より大正十三年五月末日の八億四千四百餘萬圓となつて將に三倍に垂んとして居る。右の如く我が財政は中央、地方を通じて急激なる膨脹を來たし、國民經濟を壓迫すること甚だしきものあり、大震火災善後の事業を控へたる今日、其の前途は極めて多難なりと言はなければならぬ。

次に我國の貿易に就いて見るに、戰時中我國は交戰國の輸出杜絕に乘じて大いに海外に販路を擴張し、內

地産業も亦非常の活況を呈したるを以て、外國貿易は一時異常なる發展を遂げたのである。輸出入總額は戰前大正二年の十三億六千餘萬圓より戰爭の將に終了せんとする大正八年までに四十二億八千餘萬圓に增加し此間常に輸出超過を示し、大正六年即ち戰亂の半に於ては五億六千餘萬圓の輸出超過を示すに至つた。大正二年より同八年に至る七年間の輸出超過總額は實に十四億圓餘に達したのである。然るに戰後に於ては交戰國の經濟的活動の開始と共に我國の外國貿易は頓に不振となり、累年輸入超過を繰返し、昨年の入超は[illegible]臺灣の分を加へて六億二千二百餘萬圓の巨額に上り、本年上半期に於ては既に七億千百餘萬圓の入超を告げ大正八年以降の入超累計實に二十七億七千百餘萬圓の多きに達したのである。隨つて我國の正貨も、大正十年一月二十一億九千餘萬圓の最高記錄に達したものが、逐次減少して本年七月末には十六億三千五百餘萬圓となつた。外國貿易の不況右の如き次第であるから、我國の對外信用も漸く墮ち、外債の募集は意の如くならず、爲替相場の如きも隨つてまた異常の低落を告ぐるに至つた。

内地の經濟情況を一瞥するに、大正九年の大瓦落以來、消費品、奢侈品、最近に於ては建築材料に關する產業に於て、多少の活氣を見るの外、一般に萎微不振にして、金融は常に梗塞し、物價は依然低落の徵を見ない。斯の如く產業は振はず、外國貿易は逆調なるに拘らず、金利が高く、物價が低下の徵を見ざる所以のものは、我國經濟界の極めて不健全なる情態に在ることを示すものであつて、金融の梗塞は即ち國力の不足富の蓄積の足らざるの致す所、物價の低下せざるは一般國民の不健全に過大なる消費の致す所と觀測せざるを得ない。以上述ぶるが如く、我國の財政經濟は今や一大難局に遭遇しつゝ在るのであつて、上下協戮、相共に勇猛心を振起して總努力を爲すに非ずんば、此の難局の打開は至難である。

眼を轉じて歐洲諸國の戰後經營に對する努力を見るに採つて以て他山の石とすべきもの尠しとしない。戰

時中各交戰國は國を擧げて力を戰爭に集中したる爲め、其の財政が非常なる膨脹を示したるは勿論、國民經濟も亦多大なる創痍を蒙つた。戰火終熄するに及んで、各國は乃ち財政經濟復興の一大難關に逢着したのであるが、各國要路の當局は勿論、國民全般が奮勵努力克く此の難局に處して其の方途を誤ることなく、以て財政の緊縮を圖ると共に國民經濟の整理に鞅掌し、產業の復興、國民生活の安定、國力の充實等着々成功を收めつゝある。殊に倫敦會議の結果佛獨の軋轢緩和せられ、獨逸の經濟復興と賠償に關する圓滿なる協定の成つた爲め、歐洲各國の經濟的發展は期して待つべきものありと推測せられる。

今玆に一例として英國に於ける財政經濟復興の努力を語らんに、英國の歲出入は戰爭終了の年卽ち一九一九年度に於ては歲入十三億三千九百餘萬磅、歲出十六億六千五百萬磅であつて、歲出は歲入を超過して居たが、一九二〇年度に於ては歲入十四億二千五百餘萬磅、歲出十一億九千五百餘萬磅となつて、美事に財政緊縮の實を擧げた。次に戰時中英國民が猛烈なる愛國的努力を以て食料に關する諸般の制限に服しながら、婦人に至るまでも軍需工業は勿論、或は公共事業に、或は農產業に從事し、報公の至誠を效せるは顯著なる事實であるが、此の國民的總努力は戰後經營に對しても引續き行はれたのであつた。今之を勤儉貯蓄に關する方面に就いて見るに、一九一六年には國民貯蓄奬勵の機關が設けられ、中央、地方相呼應して其の奬勵に當り、全國を通じて二萬に近き貯蓄實行組合が設置せられ、主として民間の運動として勤儉貯蓄の實行に力を盡くし、貯蓄債券の購入を勸誘したのである。此の戰時貯蓄債券は戰後に至つて國民貯蓄債券と改稱せられ引續き發賣せられつゝあるが、今その賣行高を見るに、戰時中卽ち一九一六年二月より一九一九年三月までの總額は二億四千餘萬磅に達し、一九一九年四月より一九二二年三月までの戰爭終了後は二億五百餘萬磅に達した。斯の如き驚くべき事績を擧げ得たる所以のものは、英國の民性が堅實なるが故でもあり、統制ある

貯蓄奬勵機關の活動に依ることも勿論であるが、此の機關に策應して貯蓄實行組合員の自發的に爲したる愛國的努力に依ることも極めて大なるものありと言はなければならぬ。

右の如く英國の朝野を擧げて實行したる政策が、國民經濟の復興に如何なる効果を齎したるかは、其の物價指數の移動に依つて窺ふことが出來る。今英京倫敦に於ける一九一四年(大正三年)七月の物價指數を一〇〇とするときは、一九一五年(大正四年)は一二九・二となり、漸次昂騰して一九二〇年(大正九年)には三二九・七四と云ふ最高の數字を示したが、その後漸次低下して一九二四年(大正十三年)五月に於ては一七六・五となり、即ち一九一四年に比し一倍半强の騰貴を示すに過ぎなかつた。然るに我國に於ては、戰後等しく財政經濟の難局に逢着しながら、何等徹底的に施設する所なく、殆んど其の日暮らしの糊塗策を是れ事とした爲め前掲英京倫敦の物價指數に比較して、帝都東京の物價指數は一九一四年(大正三年)七月を一〇〇として一九二〇年(大正九年)には最高二七二・八に達し、其後低下の趨勢捗々しからず、一九二四年(大正十三年)五月に至るも尙ほ二一五・六即ち大正三年に比し二倍强の情態に在つたのである。

前陳の如く我國の財政經濟情態は世界大戰後非常な難局に直面して居るのに、搗て加へて昨秋の大震火災は一日にして幾十億の國富を灰燼に歸せしめたので有るから、其の難境は彼の世界大戰後に於ける交戰國のそれと相讓らざる情態に立至つたのである。我國は今や諸强國の間に伍して國家興亡の分水嶺に立つて居るのである。而も國民の奢侈放縱、輕佻詭激の俗尙ほ革らざるものあるは洵に深憂に禁へざる所である。然らば此の難關に善處するの道は如何、他なし上下協心戮力、朝に在つては財政並に行政を整理緊縮し、一面能率の增進を圖ると共に、他面財政の基礎を鞏固にし、進んで財政の國民經濟に對する壓迫を除き、以て產業の發展を促進すべく、民間に於ては奮つて勤儉貯蓄の國風を作興し、以て生產を增加し、資本を蓄積し、物

價並に金利の低落を計り、産業、貿易を伸張し、以て國運の隆昌を期するより外はない。

抑々勤儉貯蓄は質實剛健、醇厚中正なる精神の産物であり、また質實剛健、醇厚中正なる精神の母である之を個人的に觀るも、又社會的に觀るも、經濟上は勿論、道德上に於ても至重の意義を有つて居る。之を經濟的に觀察するならば、個人的には生活の安定を齎し、社會的には生産の增加、資本の蓄積を齎す。之を道德的に觀察するならば、個人的には獨立自尊の精神涵養の源泉であり、社會的には最も容易にして通俗なる方法に依る社會奉仕である。換言すれば勤儉貯蓄は經濟と道德とを連結する所の關鍵である。然しながら言ふに易く行ふに難きは勤儉貯蓄である。古より勤儉貯蓄の必要は常に唱へらるゝ所で殊に德川時代に於ては法制を以て之を强制せんとした事さへあつた。最近我國に於ても此種の奬勵は數回企圖的に試みられたのであつたが遺憾乍ら多くは充分なる成果を收め得なかつた。換言すれば聲のみで實が擧がらなかつた。而かも天惠に乏しき我國に於て今日斯くの如き窮乏の情態に立至つた事實を眞に了得するならば、何人と雖も徹底的に此の方法に依るに非ずんば國運の打開得て望み難きことを悟るに違ひない。

然らば勤儉貯蓄は如何なる方法に依つて之を實現すべき乎。先づ第一に苟も擧國一致の實を擧ぐるが爲めには、生活に餘裕ある者と雖も無爲徒食の恥づべき行爲なることを自覺し、進んで業務に服し、勤勞以て社會に奉仕するの氣風を興さなければならぬ。第二に既に業務を有する者は勵精恪勤常に能率の增進を計つて優秀なる成果を擧ぐることに努めなければならぬ。特に生産の業務に從事する者に於ては製品の改善向上に最善の努力を拂はねばならぬ。今や我國は國際貸借の關係上、外國品の使用は出來得る限り之を抑制せねばならぬ情態に在るのであるから、生産の業に服する者は粗製濫造を戒め、優良なる內地生産品を以て外國品に代へしめ、更に進んでは世界市場に活躍するの覺悟がなければならぬ。第三に國民は相戒めて奢侈贅澤の

抑制に努力しなければならぬ。奢侈贅澤の風が戰時中より漸を逐ふて彌蔓したる事實は上述の如くであるが試みに之を酒並に煙草の消費量に就て見るに、酒は大正三年に其の消費量四百二十一萬五千二百十六石であつて、國民一人當り七升九合なりしに、大正八年に於ては七百十三萬四千三百十四石、國民一人當り一斗二升七合となり、更に大正十一年には稍減少したるも尙ほ六百八十八萬九千百六十一石、國民一人當り一斗二升に及んで居る。次に卷煙草の消費量に就いて見るに、大正三年には七十五億六千七百九十六萬餘本、國民一人當り百四十二本なりしに、大正八年に於ては百七十二億九千五十二萬餘本、國民一人當り四百十九本に增加して居る。また近時外國製奢侈品の輸入も莫大であつて、其内の酒類、煙草、寶石のみに就いて見るも其の輸入額大正九年に於ては二千百八十二萬餘圓に達し、大正十二年に於ては一千二百四十五萬餘圓に上つて居る。此等の數字は奢侈の流行を雄辯に證明するものと言ふことを得べく國民の擧つて反省すべき點である。政府は玆に見る所あり、輸入奢侈品の關稅重課を斷行し、之れに依つて奢侈贅澤品の輸入を防止し、仍つて以て國民精神緊張の一助に資せんとした。若し我が國民が大いに反省して各自に一年十圓宛奢侈品の消費を節したならば、玆に直ちに六億圓の國富を生み出す計算となる譯である。

以上述ぶる所の外、我が國民日常の社會生活上並に個人生活上改善すべき點も決して尠くない。社會生活上虛禮虛飾の徒らに多いことは我國の久しきに亘る病弊であるから此等は斷然廢すべきである。また個人生活上規律と節制とを缺ぐが如きは相共に戒めなければならぬ。時間の不勵行、電力、瓦斯、淨水使用の無節制等に因り、我が國民が不用意の間に被りつゝある個人的並に社會的損失は實に莫大なるものありと信ずる生活を改め、之を引締め、之より生じたる餘剩貯蓄の方法としては、或は既設の貯蓄機關を利用し、或は新たに貯蓄團體を組織する等種々の手段を取るべきであるが、此際特に慫慂致したきは、震災地の復興並に地

方産業の振興を目的として今回發行されたる復興貯蓄債劵の購入である。之を購入することは卽ち勤儉貯蓄となる。最後に申すまでもなき事ながら勤儉貯蓄は決して吝嗇を奬勵する意味のものではない。之は賢明なる努力と賢明なる消費と賢明なる貯蓄を意味するものなること勿論である。

以上屢說したる如く、世界戰亂後における財政上、經濟上並に社會上の難局の後を承け、振古未曾有の天殃に遭遇したる我が帝國の危機を轉回し、以て聖旨に副ひ奉るの道は、擧國一致、勤儉貯蓄の美風を作興することを以て其の第一步とせなければならぬ。曾て世界大戰亂に當り時の英國宰相ロイド●ヂョルヂは、戰亂數年間の艱難を以て千載の經驗に値ひすと爲し、「此くの苦き經驗と敎訓とを活用することを忘るゝならば是れ神の與へたる試練を無視するものなり」と述べたが、實に其の通りである。我が國民たるもの、戰後の難局並びに昨秋の一大天殃に因る敎訓と經驗とを雲煙過眼に附し、今にして尙は覺醒する所なくんば、是れ實に天の與へたる試練を無視するものと謂はなければならぬ。

英國の失業問題（下）

社會局書記官　大野綠一郎

七

英國政府が失業者救濟の爲めに行つて居るところの第二は公營事業である。同政府は此の爲めに失業救濟補助委員會なるものを設け、ロードセント●デービスを長として、地方團體に財政的援助を與へ、地方廳をし

て失業者救濟の爲めの公營事業を行はしむる事になつて居る。政府は之れに關する大體の條件を(一)其の地方が失業問題にて困難せることを所管大臣が認定すること、(二)事業そのものが必らず公益に關するものなること、(三)補助金が賃銀の三割を超ゑざることゝ定めた。

其後此の三割が六割となり、補助の對象が地方公共團體でなくても營利を目的とさせざるものには直接補助する、と云ふ樣に段々適用の範圍が擴まつて來て居る樣である。又此の法律が定められたのは一九二〇年であるが、其の翌二一年には事業の性質を歲入の有る仕事と無い仕事との二つに分け、前者には十年以内の起債に對して五箇年間利子の半額を補助する、後者には起債年限の半期間利子及び減債資金の六割五分を補助することにした。一九二〇年五月までに此の法の適用を受けたものが千七百二十四萬磅に達し、人員は延員數で六十二萬九千餘人に及んで居る。尚之が爲めに要する材料の作成等による間接の效果を算ふれば可なりの人數に適するものと考へられる。此等の事業の種類は道路、公園、小公園、墓地、瓦斯、水道、下水、軌道、ペンキ塗換へ、船渠、港灣、埠頭、開拓、電氣事業其他で、政府の支出は年額にして必ずしも大なりとは言へないが、十五年間において約八百七十萬磅に達するのである。

八

第三には道路改修によつて失業者を救濟して居る。卽ち道路の新幹線を作り、主要道路を改修し、此の方面に失業者を使用するのであつて、政府は之れが爲めに千四百萬磅の特別資金を作り、道路改良基金から四百萬磅、國庫より千二百萬磅及び地方團體へ起債應募の形式にて五百二十萬磅を出し、之を以て其の財源とした。それが實施されたのは一九二〇年である。政府は此の金から地方團體に對して二分の一の補助を與へ

他の二分の一に對する財源の無いときは、國庫の貸金の率で五箇年以內に募債に應ずる事としてある。其の實績を見るに頗る優良であつて一九二〇年から二一年までに總額四百八十四萬磅の仕事をして居る。尙ほ一九二二年に二百萬磅を出して失業情態の甚だしい處に向ける事とし、內百萬磅を倫敦に、百萬磅を他の地方に出した。其他倫敦に對しては特別に支出されたものがある。

道路線は倫敦を中心に歐大陸に向つてドゥヴァ若くはフォルクストンに通ずるが如き重なるものを主とし其他地方にも主要道路を造つた。此の工事に從ふ勞働者は成るべく不熟練なる者を集め、其の賃銀は地方一般の賃銀の七割五分を超ゑざる事としてあるが、併し特に熟練なる者はさうでなくとも宜い事になつて居るまた雇入期間が三日を超ゑざる時は八割五分五厘とする事等の條件を附してある。職業紹介所が其の勞働者を周旋することになつて居るから紹介所に於て適當に調節を爲し得る譯である。

九

第四には救貧法（プアー、ロー）に依つての救助である。之は非常な金額であるが、其の實施方法に關しては種々の議論があつて、其の爲めに始終ゴタゴタして居る。所管大臣は之によつて無爲遊食を防止する爲めに各種の訓令を發して居る。之に就いての有名な話はポプラー事件で、ポプラーは倫敦で勞働者の多い處であるが、此處の區會（ボロー、カウンシル）が規定された救助金を出さなかつたと云ふ事である。卽ち此處の救貧委員は大部分勞働黨側の者で、衞生省の命令なるにも拘らず、失業の激增、被救助者の增加の爲めに到底費用の負擔に堪へずとして、結局區會が倫敦市會に費用を支拂ふことを拒絕した。則ち此の如き貧乏區に對しては政府は宜しく特別の方法を施すべしと云ふ事を事實に於て主張したのだ。一九二一年の九月には裁判の結果ポプラー議員は法官侮蔑罪に

問はれて投獄された。政府も事不問に附し暫く議會へ提案した。併し中央都市救濟資金なるものを作り、都市の救濟に充てる爲めに資金を支出する事とし、結局ケンシントンとかウエストミンスターとか云ふ金持區域に住む者が相當の負擔をする、と云ふ結論になつて此の事件は一應落着した。

斯様な次第であつて英國政府は救貧法に依つて出さねばならぬ金が多くなつて非常に困つて居る様である。余は一日メリルボーンと云ふ救貧法の救貧院へ行つて見たが、此處に入つて居る者が澤山あつて、昔のやうに勞役はさせないけれども、當時の珈琲の粉扮器械は今も其の儘になつて居た。余が行つた時は恰かも食事の際であつたが、此の救貧院に收容されて居るものは皆ヨボ〱の老人で、何れも是れも生活に疲れ切つたと云ふ樣子をして居たので、一種何とも言へない感に打たれた。

一〇

第五には仕事の根本に立入つて仕事を起させる爲めに商業促進法(トレード、ファシリチース、アクト)と云ふものを起して居る。之はロイド●ジョージの時に專門家を集めて意見を聞いた結果、鐵道の擴張、鐵道の電化、船渠、工場の擴張等、戰前に於て實施すべかりし事業で生產費や金利の高い爲めに延期されて居つたものを再起する法律である。此の爲めに一定金額が保證される事になつて居る。初めは二千五百萬磅であつたが勞働黨內閣になつてから五千萬磅に增された。保守黨內閣となつた今日でも此の金額で引續き行はれて居ることゝ思ふ。之は必ずしも英國々內のみと限らず、國外でも鐵道を敷設して其の附近の產業を開拓し、需要を增加し、延いて英國の生產を獎勵し、其の方面に失業者を吸收し得る場合には、之に對して資金を融通し得ることになつて居る。無論委員會を作つて嚴重なる審査をする。政府は又其の委員會の審査に關して一切干涉しないと云ふことを議會に聲

明して居る。之は政黨との關係を慮つたからで、或る政黨に特別に都合好き保證を爲すと、結局此の法の目的が達せられぬからであらう。經營法が悪い爲めに事業の進行困難に陷り、遂に中止したと云ふ樣なものは認めず、何れも都合好く運んで居る。尤も其の事業の内容は營利に非ずして公益的のものでなくてはならず又配當の高率なものはいけないと云ふ樣な條件がある。種々の材料、物資を購入する場合に、競爭入札に附すべしと云ふ樣な事もある。之は物價の高くなるのを防止せしむる爲めと思はれる。

第六には輸出貿易信用策（エキスポート、クレヂツト、シイム）を行つて居る。之は海外貿易法（オーバーシー、トレード、アクト）に依り輸出貿易商が海外にある顧客に宛てゝ手形を發行した場合に、政府が之を保證し、之に對して輸出商の銀行が融通するのである。尤も仕事の内容によつて保證の程度が違ふ。以上六種の方法の外、農商務省で開墾事業を開始するとか、森林を經營するとか種々の仕事を失業者救濟の爲めに行つて居る樣であるが、爰には之を省略する。

二

英國政府は此の如く失業問題の對案に努めて居るが、休戰條約後一九二二年までの四年間に、失業者救濟の爲めに支出した金額は二億八千百二十一萬六千四百四十一磅（邦貨二十八億一千萬餘圓）に上つて居る。其他に救貧委員から救貧法の施行として支出せる金が六千萬磅（六億圓）あるから之を合算すると約三十四億圓の支出を見た譯である。斯く手を代へ品を代へて政府に失業救濟に手を盡して居るにも拘はらず其の効果を擧ぐることは頗る難しい樣である。昨年余が行つた時、ラウントレー氏等が『三年後の失業』と云ふ本を出して、此の方面に於ける最も適當なる研究の調査の結果を發表したが、之れに由つて看ても英國が朝野を通じて如何に失業問題のために苦しんで居るかを知ることが能きよう。

斯る狀況であるから、此點に關した丈でも今春の總選擧に勞働黨が多數の投票を得べきことを信じて居つたが、果然彼等は天下を取つた。然るに未だ其の政策を十分實施するに遑あらずして今回保守黨に取つて代はれた。併し此等の政策が如何なる程度まで失業の救濟防止に效果あるか、本來失業が政府の政策によつて如何なる程度まで支配し得べきかは、蓋し研究を要する問題である。余がゼネバの國際勞働事務局で墺太利のビルブラム博士に會つた時、同博士は「失業には三つの見方がある、一は道德的、一は經濟的、一は政治的である、既に三ッの見方があるから、隨つて政治的に可なるもの必ずしも經濟的若くは道德的に效果あるものとは言へない、此の三箇の要素に亘つて漏れなく考へなければ、眞の失業問題を考へ盡すことは出來ない」と思ふと言つて居つた。「如何にも其の通りで予も此說には同感である。

二

尙ほ今一つ述べたい事がある。日本へ歸つて見ると、朝野人士の間に移民問題が盛んに論議せられて居る予も洋行前には移民が失業問題解決の一方法たることを信じて居つたが、其後段々各方面の意見を聞いて見ると、移民問題と失業問題とは分離して考ふべきものである樣に考へられて來た。卽ち移民問題は人口問題の一解決策として考ふべきものだが、失業者は之を移民させても失業問題を其儘他に移すだけで、一向移民の實績を擧ぐることも出來ねば、失業救濟の目的をも達せられまいと思ふ。予はルクサンブールの世界失業救濟會議にも參列すべき命を受けて居つたが、風邪の爲めに缺席し、歸朝後その報を見た丈であるが、同會議の議題の一つに「失業救濟の政策として見たる移民問題」と云ふのがあつて、之れに就いて英國の委員は移民問題と失業問題とは別々に考ふべきものであると論じて居る。

一體英國は移民で人口を調節し來つた國柄で、戰前は年々二十五萬人乃至四十五萬人を移民させて居つた余が倫敦のトラファルガル●スクエーヤーを步いた時、通りに面して澤山のポスターが出してあり、そして濠洲其他植民地の政廳が、此處では棉が出來るとか、羊毛が出來るとか、林檎が出來るとか云ふ樣に、標本や說明書やを出して移民を奬勵して居るのを見たことがある。斯うして移民は奬勵されて居るけれども戰時中は其の移民が全然止つた。それから戰爭の爲めに幾多の人命を失つたに拘らず、一九二三年には英國の人口は一九二一年に比して百十二萬人殖ね、而も今日では工業が全然吸收力を失ひ、加ふるに婦人が著るしく增加して男子よりも百七十萬人多く、それがまた工業に喰ひ込んで居ると云ふ狀態であるから、移民といふことは人口問題として大いに考慮を要する事であるが、之を失業問題としては加奈陀に移しても濠洲に移しても仕方がないと云ふ事であつた。之はナンスコットと云ふ人の意見である。兎も角工業の發達に伴つて起る失業問題を如何にするかと云ふことは實に重大なる社會問題である。我が日本でも政府民間相共に今から此の問題を充分硏究し進んで其の適當なる對策を樹てたいものである。

英國の社會施設の一班

辯護士　相川米太郎

英國は民衆主義の國であるだけに能く時代思潮の趨向を察して資本家と勞働者、富める者と貧しき者、上の方と下の方との融和協調を圖ることに努めてゐる。勞働黨は勿論、保守黨でも、自由黨でも、此の政策の

根本は一致してゐる。勞働時間を制限するとか、下級民の生活程度を向上せしめるとか、失業其他の事故に依る貧民を救濟するとか、內に對する政治の基調は要するに民衆主義である。貧民救濟はプアロー(貧民法)といふ國法によつて之を行ひ、失業者のためには其の救濟と共に一面において授產授職の道を講じ、失業保險を實施し、また無料病院を設置するなど種々の方法を講じてゐる。之等の施設の內には參考とすべきものも尠くない。英國に此の貧民法が公布實施せられたのは、其の社會組織の然らしむる所で、深い原因があり相當の歷史的根據があるのであつて、之を約言すれば、英國に於ては啓蒙時代まで富者は資本合同を以て國內產業及び外國貿易等を獨占し、仍つて以て巨富を作り、遂に現代の如き資本主義國たらしめたのであるが之がために貧富の差が甚しくなり、多數の貧民が出來、下級民の生活が苦しくなつたので、時代思想の變化と共に、貧民法その他の種々なる社會施設が行はれる樣になつたのである。

英國の民法は貧民家族の救濟は勿論、彼等の向上發展を主眼として居るので、ウォキングハウスや學校病院等を設け、そして監督を嚴重にしてやつて居る。救濟された費用は一生貧乏のものは仕方がないとして後日相當の資產が出來れば之を返濟せしめるのである。その救濟機關として設けられたのは貧民保護局である猶ほ各カウンデーバアロー、チストリクトバアロー、パアリソシユ等に貧民救濟委員會を設けて居る。此の救濟委員をガアデアンと呼び、パアリソシユに於てのガアデアンは區民に於て選擧することになつて居るが各パアローでは市會議員が同時に此のガアデアンとなるのである。ガアデアンの任期は三年で、毎年三分の一宛改選し、六箇月以上缺席する者は資格を取上げられるのである。監督官廳としてはローカルガハアメントボートなるものを置いて詳細なる手續の下に監督を行つて居る。

是等の救濟は主として屋內に於て行はれ、而して貧民は國法に依り救濟を受くべき權利を持つて居るのだ

が、此の權利は國法上の權利で、一家に於ては夫が之を有し、妻は夫の名に於て子は父の名に於て救濟を受けるのである。救濟部は貧民に食と住を供與するの外その生活上に於ける一切のことを保護する。例へば病院を設置して病弱者を救濟するとか、學校を設けて貧民兒童を敎育するとか、多方面に亙つて用意周到に子供の敎育及び將來の職業等に付いてガアデアンは其の義務として之が指導の任に當らなければならぬのである。尤も職業の選定に付いては一應その子供の兩親の承知を得ねばならぬ事になつて居る。若し兩親のない私生兒であればマダストレート(判事)の指圖に依るのであるが、此等に付ても種々の規定と方法が設けられてあつて、餘程注意を拂つて居る。また老衰者、虚弱者、病者等はウォークハウスに收容して保護され、精神病者、瘋癲者に對しても夫々その救濟保護機關が設けられてある。

屋外における救濟は主として浮浪者の救濟であるが、之れは一時禁止され、其後更らに改めて行はれる事になつた。其の救濟方法は金錢物品の供與及び醫療等である。貧民部に收容されない貧民の中で初等敎育を受ける十六歳以下のものも此の方面で救濟を受けるのである。其他田舍には醫療部を設けて病弱者のために救濟訪問又は特別婦人訪問なども行はれる。救濟費を濫用すると怠惰の貧民を增加せしめるから、之を防止する爲め、一面貧民の自尊心を害せざる程度の金を貸付の形式にて與へ、後日その貸付を受けたものが相當資產を有する樣になれば、貸付に對する返濟といふ形において、十二箇月分の救濟費を支拂はねばならぬのである。また赤貧者の兩親、祖父母、子、夫及び妻が多くの私有財產を有する時は夫れ〴〵救濟費を强要される事になつて居る。救濟費は無論支出するが寄附は多く之を基金とする。

歐洲大戰後、歐羅巴に於ける重大なる社會問題となつて居るのは失業者の救濟である。各國何れも此の問題には餘程苦心して居るが、英國では之を單なる社會問題とせず、併せて政治上の重大問題となし、昨年十

二月予の渡歐中に行はれた總選擧には保守黨も勞働黨も自由黨も之を其の政策中の主要題目として居た。世界的不況の今日だから其の積極的效果は容易に望めないが消極的效果は着々擧つて居るやうだ。予の滯英當時における失業者の總數は約一百七十萬と稱せられ、それが勞働黨政府になつてから幾分か減少した模樣であるが、まだなか〳〵容易に始末が付かぬらしい。失業者救濟は國家が國費を投じてやるのであつて、倫敦に中央失業者救濟部を設立し、職業の紹介をなすと同時に、失業者に金員を支給するのである。支給額は男子は一週間に最低約八圓、女子は六圓位、子供ある場合は一人宛に約一圓五十錢位の割合であるが、此の支給總額は一箇年間で實に三億圓といふ驚くべき巨額に達した。此の額は國費總豫算の百分の四弱である。政府はまた失業者保險法を制定して別途に失業者救濟の道を講じて居る。

以上の外、勞働黨政府時代に於て貧民救濟の目的で貧民家屋二百五十萬戸の建築を計畫し、之を議會に提案し、そして議會の問題となつたが、兎に角下院だけは通過した。此の案は一戸五百磅位の家屋で二百五十萬戸を十五箇年に建築し、一週間收入三磅乃至四磅程度の人々に對して一週間八志乃至九志つゝ支拂はしめ支拂完了の上はその家屋を個人の所有たらしむるのである。倫敦では十疊位の間借りをして一週間五圓の賃料であるから、普通の賃借料を支拂つて行けば、その家が結局自分のものになるわけであつて、下級民のためには洵に此の上もない適當な社會政策と謂はなければならぬ。

英國に於ては言論の自由が十分に保障されて居るので、露國の過激思想、共産主義、超國家主義など自由に討論され、勞働黨は過激派一味と連絡あるものと見做された程であるが、實際上の政策は穩健である。即ち英國の國礎を害せざる範圍に於ける堅實なる改善主義の社會政策を遂行して居るのである。夢の如き共産主義や過激主義に心醉する者は英國の例に鑑みて須らく反省すべしである。

此くの如くにして英國に於ける社會政策は着々その効果を擧げ、貧民保護に關する諸種の施設は洵に至れり盡せりで、流石は民衆主義の國であるわいと感服せざるを得なかつたが、此の反面には依頼心と怠惰心を助長せしむる虞がある。例へば就職口があつても賃金が低廉であると故意に應ぜないやうな横着者が出來る殊に面白くないのは失業者の中に生計困難に藉口して市中に乞食をするものが多いことである。土曜日又は日曜日に倫敦市中の住宅地方面を一週すると到る處に乞食の群を發見する。其の乞食の中には日本などのやうに弊衣を纏ひ穢ない風をして憐みを求むる乞食とは違つて山高帽を冠つた風采堂々たるものもある。倫敦では單に憐みを求むる專門の乞食は嚴禁して居る。故に彼等は歌を唄つて町を流して歩くとか、或は音樂を奏でゝ行くとか、又はマッチ或は靴紐などを販賣の形式で金を貰ふやうにして居る。彼等が哀れな聲でシンギングしながら町を流して行くこと、兩側の二階又は三階の窓から五錢、十錢の金が落ちて來る。町の角あたりで廢兵や老人などが音樂を奏して居ると一寸したレデーは金六ペニー(日本の二十四錢位)を惠むのが普通の慣例になつて居るやうだ。此の收入が一週間に二磅以上四磅位あるので、横着な者は就職口があつても賃金が安いと云つて就職せず、政府からは救濟金を貰ひ、一面斯んな事をして金儲けをして居るのだ。之れは慥かに貧民及び失業者救濟の暗黑面である。然るに一般市民は之を戰後の副産物として太した問題と思つて居ないやうで此邊流石に大國民の襟度であると褒めていゝか惡いかは問題だらう。

英國の社會施設は貧民法を基本として作り上げられたのであるから、前述によつて略々その一般を窺知し得ると思ふが、猶ほ此外に倫敦のメトロポリタンに養老院が設けられてある。此の養老院は非常に大規模なもので設備も能く整つて居る。少年感化院の施設等の發達し居るのは勿論である。それから倫敦市内には殊に慈善病院が多い。其の數を擧げると男子部が三十三箇所、婦人部が七箇所程あつて、その男子部の病院の

うち三十一箇所は中流と下流との中間程度の者の醫療救濟を目的として、此の病院に行くには市から居住並に資産狀態についての證明を得て入院又は醫療を受くるのである。他の二箇所の病院は全然貧民と目さるゝ者の施療救濟機關で何等の證明書を要しない。婦人及び子供の病院も中流と下流との中間者に若干の入院料と藥料を出させて醫療して居る。併し全くの貧民であることが判明すれば全然無料で施療する。之等の慈善病院は國から補助を受けて居るが、夫れは極めて僅少なもので、多くは篤志家の寄附によつて維持されて居る。此の方面に對する富豪の寄附は相當に大きなものであるのみならず是等病院の設立が元來富豪の寄附に端を發したのである。此邊のことも英國は他國に比し餘程進んで居る。

寄附といへば社會の公益事業に對する日本人の寄附が進まないのは甚だ遺憾である。富豪の寄附も申譯的だから困る。英國富豪の寄附的行爲に鑑み日本の富豪も大いに覺醒して欲しい。英國では富豪の寄附の外に一般國民の寄附を歡迎して居る。其の方法の一般的なるものは、一年數回に亙つて花賣デーを催し、其の收入を病院に寄附するのであつて、主として倫敦婦人會の活動に待つといふ有樣だ。予も滯英中數回この花賣デーに遇つたが、當日は實に盛んなもので、各四辻に四人位の娘が美しい造花を持つて通行人に勸め、花を胸に附して居ない男が來ると、花賣娘は一寸挨拶して花を男の胸に飾る、それで大抵二十錢位投げ出して行くのである。此の日に花を飾つて居ないものは人でない樣に思はれるので何んな人でも花を買ふやうになる一日の花の賣高が二百萬圓から三百萬圓に上るといふから太したものだ。全國的に催されるので斯んな莫大な額に上るのである。斯うして大きな寄附が募られるのは羨ましいと思つた。競馬がある場合は病院から競馬場外に人を派して特別馬劵を賣り其の揚高を病院の經營費に當てゝ居る處もある。

倫敦の慈善病院に感心な事は其の取扱が非常に親切叮嚀なことである。米國にも多數の慈善病院があるが

評判が頗る惡く、慈善病院に行くのは死に行くと同じだと云ふて、慈善病院に行くのを大變に嫌ふ風があるので、餘程の貧民でなければ行かない。然るに英國には少しもこの憂ひがない。中流以下の市民は皆この病院の厄介になれるのだが、中産階級のものは此の恩惠に浴することが出來ない、其處に多少の缺陷があると云へば云へやう。兎に角倫敦の慈善病院の完備した事と、その取扱ひの親切なる事とは恐らく世界一といつても過言ではあるまい。皇帝、皇后兩陛下は時々この慈善病院に臨幸遊ばされるさうだ。殊にヨーク公爵、英國第二王子は妃殿下と共に始終各方面の病院を慰問又は視察されるので、病院でもそれに勵まされて大いに努力して居る。以上は英國殊に倫敦における社會施設の一班を述べたのだが英國民の社會心と其の道義觀念が如何に發達して居るかゞ之に由って見るも窺知し得られるだらう。

健康保險法實施

健康保險法は既に大正十一年四月に公布され十三年四月から實施することとして一旦は確定豫算に計上されたが大震災のため實施が延期されてゐた然るに若槻內相は同法を一日も速に實施するの必要を認め熱心に主張した結果閣僚の承認を得るに至つた內務省要求の實施費二百萬圓は來年十月から全國に亘り同法を實施して保險現業を開始する費用であつて別に三十萬圓を準備費として要求し之れによつて實施に先たち全國に配置すべき現業員の講習及び養成を來年四月から行ふ計畫である一方本省では速かに保險法施行令(勅令)を起草し參事官會議、內務省議、法制局、閣議を經て公布する手續を採り行政整理として一旦廢止することになつてゐた健康保險部を設置し專任部長(勅任)を任命し事務官其他をも增加する筈である此の保險法は工場法或は鑛業法の適用を受ける被雇傭者全部に强制施行され被保險者は傷病分娩若くは死亡の場合に權利として療養傷病手當金、分娩費、出産手當金埋葬料を受け取り得ることゝなる本法の實施は憲政會の在野時代に一政綱として起草した歷史もあり政府の行ふ社會政策的事業としては最も有意義なものとして勞働組合方面からも歡迎されつゝある尙ほ實施の曉には全國各府縣に一箇所づゝ健康保險署を設け各地に出張所を置き之れに勤務する官吏及び從業員總數は少くも二千名を越ゆる筈であるから一面に失業救濟の一として期待されつつある因みに失業保險の實施如何はまだ殆んど問題となつて居ないやうだが之れも其中には決まるだらう。

碧巖第八拾則

在青島　山田英治

本文は十月三十一日青島佛教會館において爲せる余の講演を書き改めたるものなり

六識無功伸㆓一問㆒。作家曾共辨㆓來端㆒。茫々急水打㆓毬子㆒。落處不㆑停誰解㆑看。

是れは碧巖第八十則の雪竇明覺大師の頌古であります。そこで本則の兩案を申上げますれば

僧問㆓趙州㆒初生孩子還具㆓六識㆒也無。趙州云急水上打㆓毬子㆒。僧復問㆓投子㆒急水上打㆓毬子㆒意旨如何。投子云念々不停流。

斯う云ふのであります。なか〳〵我々如き凡俗の輩が碧巖に啄を容るゝなぞと云ふ事は甚だ烏乎がましい次第でありますが、それは何にも禪宗の師家が語錄を提唱する樣な譯で申すのではありません、只私の思つた儘を述べる迄でありますから、間違つて居る處がありましたら、どうか皆樣方の忌憚なき御叱正を仰ぎ度く存ずるのであります。

さて本則の主人公たる趙州從諗禪師は此の山東省の生で吾々に取り先づ緣の深い高僧であります。山東省は曹州郝鄉の人（或は青州臨淄の人とも云ひます）、姓は郝氏であつて、吾が大日本帝國神武天皇卽位紀元一四三八年、光仁天皇の朝、寶龜九年、支那では唐の代宗皇帝大曆十三年に降誕せられたのであります。それは今を去ること恰も壹千百四十七年の昔に當ります。それから何歲頃か知りませんが、曹州の扈通院と云ふ寺で剃髮せられ、未だ納戒せられずして池陽の南泉普願禪師に參じ、南泉の提撕によりて大悟せられ、嵩嶽の瑠璃臺に於て戒を受けられそしてまた南泉禪師の元に歸へられたのであります後、黃檗、寶壽、鹽官、夾山等の諸大德を歷訪せられ、天資の玉質益々その光を放ち、終に衆の請によつて趙州觀音院に住まはれました。

ここで一寸申上げて置きますが元と禪宗には南宗と北宗との二派がありました。北宗禪は神秀大師が則天太后の歸依を受けて長安、洛陽の兩京に根强い勢力を植ゐ付けて、其の宗風甚だ隆盛でありました然るに南宗禪の太祖、六祖大師の高弟に荷澤神會禪師と云ふ御方がありました。此の御方が第一番に北宗禪の法窟たる長安、洛陽の兩京に於て南頓の禪風を大々的に擧揚せられ、後、山東省曹川郎ち趙州禪師の降誕地域内に在つた荷澤寺と云ふ寺の内に新たに禪宗を建立して敕任せられ、終に荷澤宗の一派を開かれました。彼の原人論の著者として有名なる華嚴の圭峯宗密禪師は荷澤宗の法系を繼いだのであります。話が旁へそれましたが、荷澤禪師は趙州禪師の出世よりは凡そ二百二三十年程前の人であります斯樣な次第であつて、趙州禪師が北方に於て南頓の禪風を振はれたのは其の最初ではありませんが、民衆に及ぼした感化力の偉大なることは荷澤禪師の行化よりも遙に上頭にあつたのであります。其の玄風の擧揚は實に圓轉活脱なるものであつて、恰も明珠を盤上に轉ばすが如く、圓石を崖下に投ずるが如く轉轆々阿轆々些子の凝滯がありません。等閑の一言一句は能く人を殺し又能く人を活かしました。其の光明の碩大なることは空前絶後のものと謂つて敢て不可ではあるまいと信じます。禪師は唐の乾寧四年十一月に百二十歲の長壽を保たれて眠るが如く圓寂せられ、眞際太師と謚をせられました。

さて、趙州禪師の略傳を申し上げましたから愈々本則に對する私の卑見を申し述べることゝ致します六識とは御承知でも御坐いましようが、眼、耳、鼻舌、身、意の六つの識であります。此の六境の識に對して色、聲、香、味、觸、法と云ふ六境が御坐います。生れたての孩子は此の六識を具へて、そして六境を分別するかどうかと云ふ問でありますが、此れは唯文字の上だけであつて、問ひ來つた僧の意は聖人の意は赤子の如し、天眞爛熳にして其處に何等の造作が無いと云ふが、其の通りであるかどうかと問ひ來つたのでありましよう。趙州禪師は此の問に對して急水上に毬子を打すと答へられた。實に此の答は僧の問に對して間に髮を入れざる答であります然るにその僧は又々投子大同和尚の處へ行つて趙州禪師が急水上に毬子を打すと答へられた意旨如何と問ひました。すると投子和尚は深く來風を辨じて叮

專親切に注脚を下し念々流に停まらずと云はれました。それで其の僧が果して悟つたかどうか私は知りません。其れに就いてゴタ〳〵御話をすると長くなりますから極く切り上げて申し上げます。

それには澤庵禪師が柳生但馬守宗矩に垂示せられた不動智妙錄と申す一文中の一句を假り來つて申し上げたら、判り易いことゝ思はれますから、今玆にそれを述べます。澤庵和尙は金剛經中の應無所住而生其心と云ふ句を引いて柳生宗矩に云はれますには「此の應無所住而生其心を貴殿の兵法に當てゝ申し候はゞ、太刀を打つ手に心を止めず、一切打つ手を忘れて打つて人を切れ、人に心を置くな、人も空、我も空、打つ手も打つ太刀も空と心得、空に心を取られまいぞ」とあります。そして其次に「急水上に毬子を打す、念々不停流と申す事の候、急にたきつて流るゝ水の上へ手球を投ぜば、浪にのつてポッポと止らぬ事を申す義なり」とあります。此れで趙州禪師の意旨を幾分か彷彿することが出來はすまいか今之を日常の仕事並に對境に就て申しますれば、譬へば自轉車に乘るにしても、初めは手は手、足は足腰は腰、目は目と云ふ工合に其の一方一處に心を奪はれ住めて、他の方が御留守になりますから、直に引つくり返つて落ちますが、それが幾度か落ち幾度か痛い目に遭つて、其れにも撓まず屈せず益々勇を鼓して乘り通せば、何時の間にか安全に乘れる樣になり、愈々熟練して其の技術が妙に入れば、手を「ハンドル」から放して乘つたり、其他色々の曲乘りさへ出來る樣になるではありませんか。是れ則ち急水上に毬子を打すと云はれた端的眞理の顯現であつて、念々不停流の活作用であります。其他三味線オルガン、琵琶、琴等の音樂の妙技も、皆此の念々不停流の端的に搵入したものでなければ、決して其の技藝は神に入つたものと云はれません。

又平凡な事に就いて申しますれば、吾々の每日取扱ふ事務が澁滯すれば、其の結果は如何でありましよう。必ずや自他の禍を釀す樣の事に立ち至ります事務を處理すること流水の如くにして常に淸き底が見得られるのではありませんか。商品の賣行き不活潑にして在荷堆積すれば、物品の變質、又は消損、或は價格の下落など、其の他豫測し能はざる損害を往々にして受けるではありませんか。水が流れないで一處に停滯すれば、漸く腐敗して有機物を醞釀し

時に惡疫發生の媒介となる事があるではありませんか。食物が胃に停滯すれば、是れまた萬病の基となり、また血液の新陳代謝が止まれば、身體は腐爛して見るも厭ふべき狀態と成るではありませんか。然らば目にも見へない手にも取る事の出來ない人間迷ひの心が、所有、物慾、嗜慾に執行して離るゝ事が出來なければ、常に焰々として燃へ上る火宅の苦みを受くる事は正に理の當然であつて、他を恨み他を責むることは出來ないのであります。然るに吾々は現在此の火宅の裏に在つて走り廻り乍ら、或は怒り或は樂み、或は悲み、或は喜び、或は憎み、或は愛し、或は驕り、或は怯れ、意馬心猿の狂ふに任せて苦に苦を重ね罪に罪を加へつゝあるは、實に悚然として衷心より懼れざるを得ない次第であります。故に吾々は吾々の環境所謂六境の事々物々に對しては恰も急水上の球子の如く看じ、其の物、其の事を其儘に看じて刹那に處理し、決して後に念を停めない樣にしたならば、其の心は常に水の流れて淸きが如く一塵の跡も止めず、趙州禪師と今日も尙ほ顏顏相照し、眉毛相厠へて、互に手を把り、互に膝を交ゐそして眞箇の樂園に悠々乎として逍遙遊すること敢て至難の事でないと確信致します。

諸君、天を仰げば月は地球を中心として動き、地球其の他の遊星は太陽を中心として動き、太陽系は又一定の方向を指して動いて居ります。斯の如く森羅萬象は大動卽大靜的の無念無想の無住活動を續けて止まないのではありませんか。此の活動に依りて春の花香を玩び秋の果實を收むる事が出來るのであります。今日は卽ち其の秋の果實を收むるの季節で此の時に當つて忝くも　聖壽無窮なる天長の佳節を祝し奉る事を得るは、實に我日本國民の誇りとして吾々は心の奥底より眞に大いに祝福せなくてはならぬのであります。此の目出度い樂しい日に於て百二十歲の龜齡鶴壽を保たれ、中間猶ほ且つ八十歲にして無住の元氣より躍出したる潑溂の意氣を以て、重ねて行脚の途に登られたと云ふ實に靑年も及ばない活氣の充溢して居られる趙州從諗禪師の言行に關する一端を皆樣方の御面前に於て述べさせて頂いた事は、私の深く感謝致す所であります。

通貨と物價

◉通貨が膨脹すれば物價が騰貴すると云ふことは一面より看て貨幣價値の低落である◉通貨といつても補助貨を除いて今日は紙幣が通貨である一時は補助貨にまでも紙幣を使つて貨幣の實價値を疑はせたものだ◉日本の兌換制度は支那や露國や獨逸のやうなもので無いから壹圓、五圓、拾圓、百圓等の紙幣はその額面通り通用する◉が物價に對する紙幣の價値は餘程下つた數年前壹圓紙幣一枚で買へた物が物價の高くなつた今日では紙幣二枚を要する◉此の實際から云ふと壹圓紙幣は額面通り壹圓に通用するもの丶紙幣の實價値はその半分の五拾錢となつた譯だ◉さすれば今日の百圓の收入は往時の五拾圓の收入と比敵する次第で給料や賃金が倍になつた處で生活は樂にならぬ◉日清戰爭前の明治二十五六年頃は拾五圓か貳拾圓の月收入で一家族三四人の生活を支ゐた者があつたが今日は是れ位の收入ではやつと一人の口を糊するに過ぎないと云ふ有樣だ◉以上は貨幣と物價の關係から見た我々日本人の生活變遷だが支那人は今日でも吾々の凡そ二三十年も前のやうな極めて安價な極めて低級な生活をして居る◉低級といふと卑しく聞ゐるが夫れで立派に活きて居りそして筋肉的にも精神的にも十分に働いて居るから豪い◉貨幣制度の經濟は便宜なものに違ひないが通貨と物價の關係が常に反比例するところに個人生活上並びに社會生活上却つて妙な悲喜劇が演ぜられるのだ◉兌換の基礎のない不換紙幣が紙屑のやうになるのは當然で露國のルーブルや獨逸のマークはその最も甚だしいものだ◉此頃或者が獨逸の十萬マークの紙幣を持つて來たが此の十萬マータと記してある一枚の紙幣は日本の六拾錢位にしか當らぬ◉即ち圓の六拾錢がマークの十萬に當るわけで斯んなに成つて了つては紙幣の價値はゼロだ◉日本も兌換を停止して居るが硬貨を代表する紙幣の信用は維持されて居る而も前述の如く紙幣の實價値は下る一方だ◉最近政府の執つた金價自由放任政策は對外的金政策の一ツで之れも奢侈抑制と金輸出の防止を目的としたものだらう◉此の金地金に對する自由放任政策は一般物價を甚しく騰貴せしめないとしても併し通貨が膨脹し紙幣の實價値が下る一方では物價は騰貴するのみで個人生活にも社會生活にも脅威を與ゐる。



財團法人　修養團の事業

在東京　一　記　者

目下日本内地に於ける青年男子の敎化訓練機關として財團法人修養團の如きは其の最も有力なるものの一に算へ得るであらう。本團は明治三十九年に始めて組織せられ、爾來逐年發達して今日に及び、今や團員數七萬六千名、既設支部數三百三十三の多きに達し、流汗鍛錬主義と同胞相愛主義とを以て根本精神として居る。此の根本精神に基いて現代の惡弊にして又國家の大患たるべき結閥排他の習俗を一掃し、同胞敬愛の實行によつて醞釀せらるべき「總親和總努力の善風作興」を成就せんとするもので、其の企圖の下に夙に左の事業を經營して居る。

一、中堅青年の講習會

本團にては魂の觸れ合ひによつて結合せる團體の總努力によらざれば生命ある事業の成就不可能なることを信じ、魂の觸れ合ひに多くの可能性を有する各地の中堅青年を集め、之と寢食を共にしつゝ心身の鍛錬を圖ると同時に、所謂汗愛の精神を發揮せしめ、更に天地の大道、建國の精神、世界の大勢、國家の現狀を明示して人類愛に立脚したる國民的自覺を喚起せしむる爲め講習會を開催する。講習會終了後は夫々自己の住居する村落、學校、會社等に於ける美風作興の先驅者たらしめ、斯くて同志相呼應し相激勵して皇祖の遺訓たる「明るき世界の建設」に努力しつゝある。大正四年八月磐梯山麓に於て第一回講習會を開催してより、毎年各地に於て之を試み其の實績偉大なるが爲めに今や滿洲、朝鮮に於ても該講習會開催を希望する者が多くなつた。

過去九箇年に亘つて本部主催の講習生五千人、支部主催の講習生は二萬人に及んで居る。其等受講生

は何れも更生復活の喜びを得、また多年自己の進路を失ひて寄るべき唯一の者すら有せず暗の世界に泣き居りし者も、此の講習によつて前途に一道の光を認め、更に一躍して暖く輝かしき希望の新世界に入るを得るため、感謝の念に溢れつゝ、先づ自己の家自己の村を善化し、進んでは一學校、一工場を美化した實例が少くない。床次前内務大臣、齋藤朝鮮總督を始め、田所、渡邊兩氏、二荒伯其他の諸名士は該講習會の實際を目撃して感激し、其の特別の取計ひを以て毎年政府より補助金を下附する樣になつた。特に畏れ多きは大正九年八月箱根仙石原の講習會に皇太子殿下の御臺臨を辱うしたことで、優渥なる玉辭を賜はつたが、大正十年の十和田湖畔の講習會には淳宮、高松兩宮殿下の御見學を賜はつた。

二、修養寄宿舍の經營

都市遊學中の各種專門學校生徒は將來國家の中軸たるべき重責を負ふものである。然るに現今の學生は概して理智に長ずるも德操に乏しく、從つて傲慢不遜、非禮、放縱、柔弱、淫靡に流るゝのみならず甚だしきは不健全なる主義思想に感染し、詭激の言動を好んで一身を誤まるもの多く、其の惡風遂に下級生徒及び地方青年にまでも波及するに至つては眞に憂慮に堪へない。更に學閥互に反目嫉視する褊狹固陋の傳統的惡風も亦甚だ憂ふべき現象である。之を打破し之を是正するの道は、汗愛主義の實行によつて醞釀せらるべき「總親和、總努力」を標榜する寄宿舍を作り、各專門學校の生徒學生を收容して品性陶冶の道場たらしむるに在りとなし、本團に於ては明治四十三年以來第一より第六までの寄宿舍を設け澁澤、森村、手島顧問を始め各賛助員の援助を仰ぎ着々所期の目的に向つて進行し來り、曾て全國各高等學校長會議の際には、本團經營の寄宿舍は適切なる施設にして其の實績良好なりと賞讃せられた事がある。本團寄宿舍の特長を擧ぐれば

一、一定主義の下に極めて自由に而も極めて嚴肅に修養せしめ行動せしめ得ること。

一、一定の舍父を中心として寄宿青年の全體に家庭的情味を會得せしめ得ること。

一、謂ゆる鍛錬主義の實行によつて心身の强健を增進せしめ得ること夫れは則ち冷水浴、國民體操、美化作業、武道等の實行である。

一、舍生相互の間に強き克己的氣分が漲りそれに觸

るゝことによつて良習慣を養ひ得ること（禁酒、禁煙、早起、默學等の類）

一、精神修養の機會多きが故に從つてまた德操の涵養に勉め得ること（大廟皇居の遙拜、定例修養會・經典の朗誦、人格者との接觸等）

一、規律的なるを以て勉學に都合好きこと。

一、理想的食物の献立法を定めあるを以て衞生的經濟的に生活し得ること。

一、校風作興の原動力たらしめ得ること。

一、各學校生徒の親和提携を圖り得ること。

三、雜誌「向上」の發行

各地青年の精神修養上最も關係深きは新聞雜誌の記事である。新聞雜誌發刊の目的は國民の善良なる指導たるべき筈なるに、經營上已むなき事情もあるべきも、現今の新聞雜誌の多くは利益主義に趨り、爲めに俗世に媚び、俗情に阿り、徒らに詭激、新奇、淫猥の記事を滿載して青年の好奇心を煽り、其の結果彼等を誤まること實に恐るべきものがある。而も現下の出版界はかゝる種類の刊行物ほど勢力があると云ふに至つては實に寒心に堪へない。本團は夙に之を憂慮し、月刊機關雜誌「向上」を發行して健全なる思想の涵養に勗むること十有八年、震災前に於ては

其の發行部數一箇月八萬以上に達した。更らに本團理事後藤靜香氏は中堅婦人の爲めに「希望」及び「のぞみ」を發刊して之れまた十五萬の讀者を得て居る此の機關誌を通じて個人品性の修養と家庭の改善に資しつゝあることは甚大である。

四、國民體操の實施

國家興隆の要素は國民の元氣である。國民元氣の作興は民衆體育の奬勵に存ずる。歐洲大戰後世界各國に於ては從來よりも一層熱烈に官民擧つて體育の奬勵に勉め、老人婦人に至るまで體操を以て日課とすること宛も食事におけるが如く、殆んど普遍的徹底的に實行せられて居る。飜つて我國を觀るに、本邦にては古來尙武の氣象旺盛にして、武士は必ず幼少の時より武道を學び、斯くて剛健なる心身を鍛へ來り、庶民もまた或は角力、擊劍、御輿擔ぎ、又は盆踊、盤持石擔ぎ、納米競爭等によつて體育の向上を圖り、以て緩急に備へたるのみならず、十一二歲頃より農工商の實務に就いて具さに艱難を嘗め訓練を經たから、其の筋骨逞しく其の力量は强大であつた。然るに現今に於ける國民の體格は次第に軟弱と

なり、殊に力量の如きは貧弱を極め、滿足な力量を有つたものは尠い。力量は力芽成長期において養はざれば枯死するものなるに、現代の日本は力芽發育時代の少青年をして智識敎育の重荷に堪へざらしめ爲めに力芽の成長を阻止せしめつゝあるは遺憾千萬である。明治十五年頃の青年は十五歳に達して一俵米(四斗)を擔ぎ得ざるを非常なる恥辱として居つた然るに今日の青年は十五歳にして一俵米を擔ぎ得るものは稀に見る情態である。是れ力芽の成長を阻止するの結果である。小學校、中學校に於ては夫々體操を課しつゝあるも、歐米國民に適應する體操を形式的に模倣するのみである爲め、隨つて我が國民性に合致せざる點が多い。學校に於ては強制的に體操を實行せしめ得るけれども、家庭に於て、又は學校卒業後に於て、自發的に猶且つ捲まず之を連續實行するもの殆ど皆無と言ふも過言でない。

最近傳聞する所によれば、米國のエール大學敎授ウォーターキャンプ氏の如きは「米國をして世界第一の理想的國家たらしむるには、米國の富力と青年の元氣とを以てするも尙能ふべくもない、其の目的成就の原動力は四十歳以上六十歳までの壯老年の旺盛なる元氣と强健なる體力とに俟たなければならぬ」と言つて、四十歳以上の壯老者を以て愛國團を組織し、毎日體操を實行したる結果、記憶力、活動力旺盛となり、仕事の能率著るしく增進せる事證を得たるを以て、大臣、大將などの位置に在る老年者までが大いに共鳴して此の運動に參加し、日々之を實行しつゝあるさうだ。又ロンドンのゼーム博士は老境返抗物理的鍛錬法を案出し、之れに依つて四十歳以上の事務員、敎師等を日々運動せしめたところ之れまた大いに事務の能率を增進せしめ得るの統計を得たので、智識階級の精神勞働者は今や競つて該運動を行ひつゝあるさうだ。斯の如く歐米に於ては老人婦人に至るまで熱心に體育を奬勵實行し、依て以て國民の精力を增進せしめつゝあるの大勢なるに我が國民の現狀如何と顧みれば、體操は學校生徒又は軍人の特殊的課業と思ひ、壯老年殊に婦人の如きは却つて體操の實行を耻づるが如き傾向あるは、眞に國家將來の爲めに慨嘆すべき事である。

修養團にては夙に見る所あり、「國民體操」と稱する合理的體操に我國固有の武道を加味し、短時間に興味を以て之を行ひ得ることゝ爲し、一度之を少青

年に傳授したるに、僅々三箇年にして全國的に普及し、其の結果、體格を改造向上せしめたもの幾十萬人の多きに達した。今日では一家、一村、一工場、一學校擧つて日々之れを實行して居る處も少くないこれ國民性に適合し而も實行容易にして效果顯著なるが爲めなりと信ずる。目下我が社會の一部分には熱心に實行せられつゝある體操少からざるも、遺憾とする所は器械を要し、特定の場所を要し、又特殊の練習を要し、殊に多人數にて實行し得ざる點に在る。國民體操は斯る缺點を除き得るのみならず、其の體操を行ふ中に總親和の氣分を醞釀せしめ、氣海丹田に力が溢れ、行住坐臥にも心身に油斷と云ふものがないから、其の容姿は嚴乎、其の態度は悠揚で實に堂々たるものとなる。猶ほ此の體操は時と處とを問はずに行はれ、一人でも喜んで之を行ふ氣分になり、數を增せば增すだけ益々愉快になり、元氣を增し、勢ひ熱中せざるを得ない樣になるので、一名「ニコ〳〵體操」と稱せられて居るさうだ。

五、向上夜學校の經營

「萬民をして其志を遂げしめよ」とは明治天皇の仰せ給ひし所で、我等臣民は七千萬の同胞全體の向上と幸福とを達成し、以て我が社稷の基礎を彌が上にも鞏固にすべく努力せなければならぬ。然るに今日は種々の事情の爲めに就學することが出來ないで失望悲觀する青年が少くない。富貴の家庭に育ち進んで高等の學校に學ぶ者は莫大なる國庫の補助を受くるに反し、貧賤に生れて中等教育さへ受け得ず早くより商工業に從事して自活の道を立てつゝある少青年が多くあるのは、彼等の不幸は勿論、國家のためにも寔に悲むべき事である。此等の人々は若き身を以て國家の產業に直接に寄與する所が少くないのであるから、大いに尊重せらるべきものなるにも拘らず、事實にがいては國家よりも社會よりも殆んど顧みられず、甚だしきは冷酷なる雇主より虐遇されて智能啓發の餘裕さへ與へられぬ者がある。

本團の主唱して止まざる相愛の精神は亦こゝにも流露し、先には實務夜學校を起し、現在は向上夜學校を開設し、晝間商工業に從事する少青年の爲めに夜間を以て其等の智德向上を講じて居る。普通の夜學校に於ては智識の傳授を主として品性の陶冶を度外視する傾きあるも、本修養團は此等氣の毒なる少

青年を尊重し、敬愛の至情を以て之が指導を試みて居るので、其の夜學生は普通の學校生徒に勝る敬虔と熱心とを以て學に勵んでゐる。貧苦窮乏の境遇にあつて働きつゝ學習し向上せんとする青年今や甚だ多きに拘はらず、社會はともすれば之を冷遇し、又學校の門は多く彼等の爲めに開かれざるの現狀なるは、「萬民をして其志を遂げしめよ」との限りなき大君の慈愛に照らして、最も遺憾と云ふべく、有志及び識者は此の修養團の夜學校を好模範として實務從業青年の訓育に努むべきであらう。

六、社會善化と社會奉仕

國家有事の際に於て最も注意すべきは過激主義者の三角同盟、卽ち通信事業從事員、交通事業從事員運搬事業從事員の同盟罷業である。修養團は玆に憂慮する所あり、善化運動の同志を各社會、各階級に求め、團員を中心として「魂の觸れ合ひ」に勗め、以て自己の屬する範圍を擔任せしめて善化網を擴張しつゝある。本團が鐵道從業員中に同志を求めて各驛に支部設立を促しつゝあるのも、各工場、各郵便局各炭鑛、各警察署に於て講習會又は講演會を開きつゝあるのも、皆悉く善化運動の同志を起たしめて其の提携を鞏固にせんが爲めに外ならない。本團經營の團員宿泊所は則ち此等同志の上京宿泊の便に供し交情を温め、盟契を深うして、其の發奮興起を促す準備運動たらしめんとして居る。要は善化網擴張の源泉たらしめんと期して居るのである。

昨秋の大震災に當つて本團は充分の貢献奉仕を遂げなかつたが、之れは此の計畫未だ成らず、且猶ほ徹底的訓練を成し得なかつた爲めである。曾つて講習會を開きたる地方農村支部に於ては、團員中上京して奉仕せんことを懇望したるもの數千人に上つたけれども、當局の注意により之を謝絶するの已むなきに至つた。併し朝鮮二十四支部、長崎縣松浦郡支部、三重縣度合郡支部、福岡縣田川郡支部等の團員は逸早く上京して、朝鮮同胞の爲め、或は市民救護の爲め、異常の努力を以て奉仕したので、之れがまた本團の上に一層光輝を増さしめた。

大藏省預金部の改造

其の資金運用委員會の組織

大藏省預金部には現今約十六億圓の資金があるが郵便貯金、振替貯金以外、如何なる種類のものを包含せるかと云ふに、それは教育基金特別會計預金、學校及び圖書館特別會計預金、大學特別會計預金、國有財產整理資金特別會計預金、米穀需給調節特別會計預金、公債金特別會計預金、賠償金特別會計預金、對支文化事業特別會計預金、簡易生命保險特別會計預金、帝國鐵道特別會計預金、罹災救助基金預金、小學校敎員恩給基金預金等の所謂官廳の成規に從ひたる預金と、それから社寺敎會、會社其他人民の共有に係る積立金、貯蓄債券賣却代預金保管金及び預金部積立金であつて、其内最も多額を占むるは云ふ迄もなく郵便貯金の十一億七千萬圓である。

是等資金を性質上より考察するに、法律上は消費寄託と云へようが、尙ほ詳細に考ふれば、隨分不統一なる資金の集積であつて、今之を資金構成の相手方に依りて區別すれば(一)郵便貯金及び貯蓄債券賣却代預金等は直接又は間接に細民階級に、(二)振替貯金は資本階級に、(三)保管金は各階級に、(四)各特別會計預金は政府にと云ふやうに夫れ〴〵之れを分類することが能きる。併し其の大半は郵便貯金を以て占め居るが故に本質上大體において細民階級の零細なる資金の集合であると云ひ得る。

翻つて此の資金が從來如何なる方面に使用せられたるかを見るに、國債證券、地方債證券、勸業債券農工債券、興業債券、滿鐵社債券、東洋拓殖債券、朝鮮殖產銀行債券、支那政府債券、同補償證書、英國大藏省證券、英國々庫債券、帝國鐵道會計其他一般會計又は特別會計貸付金、在外預金及び日銀預金等に分たれ居るが、この運用こそ財界伏魔殿の秘密を藏するものなる事は周知の事實である。

預金部をして財界伏魔殿たらしむるに至つた事は彼の對支借款、國際汽船、露國大藏省證券等に貸出されて、全く回收不能に陷り、政府及び仲介銀行會

社の頭痛の種となり居るにも因るが、其の資金の運用が大藏大臣の專斷に委せられ、萬事秘密に行はるる事が最大原因である。又十六億圓の巨資を擁して時に民間銀行の商策と對立し彼等に壓迫を與へたのに依るも否むことが出來ぬ事實である。

然しながら震災後に於ける預金部が勸興兩行を通じて大小工業の復興資金を貸出したるは、耳目に新なる所にして、此外猶は數年前財界極度の混亂時に際し、臨時事業資金を融通し、また勸業農工兩行を通じて地方低利資金を貸出し、大いに社會に貢献せる事も見逃してはならぬ。併し之に充てられた資金は未だ總資金の一割にも達して居ない。是等資金運用を其の性質上より解剖すれば(イ)甚だ固定性を帶ぶること、(ロ)引受應募證劵の條件不利なること、(ハ)資金の廻轉性乏しきこと、(ニ)放資物及び額が變動甚だしきこと、(ホ)運用が常に財政に左右せらるること、(ヘ)利子不同甚だしきこと等、資金の運用上より考察して其の當を得たものと云へぬ。

預金部は勿論利益をのみ目標とせざるも、資金を預り之を運用するものであるから、其間利鞘を生ずる。左に過去に於ける利益計算を示す。

（單位千圓）

年度	歲入	歲出	利益
明治四十年前	—	—	一七,二五一
四十一年度	九,二五四	六,一七三	三,〇八一
四十二年度	一〇,六一四	七,五五二	三,〇六二
四十三年度	一三,四四六	八,九九五	四,四五一
四十四年度	一二,二七一	八,七九九	三,四七三
大正元年度	一三,四二三	一二,四九一	一,九三一
二年度	一五,七四五	一一,八七五	三,八七〇
三年度	一四,九七五	一〇,〇六三	四,九一二
四年度	一五,四七六	一〇,三五三	五,一二三
五年度	一八,九七一	一二,三八一	六,五九〇
六年度	二二,一一二	一六,五四二	五,五七〇
七年度	三〇,三五一	二一,〇五〇	九,三〇一
八年度	三九,九三四	二七,九九七	一一,九三七
九年度	五〇,八一三	三六,四四二	一四,四五一
十年度	五四,〇二七	四三,五〇〇	一〇,五二七
十一年度	五七,三三八	四六,〇二九	一一,三五七
十二年度	六〇,一一一	五五,七三三	四,三七八
合計	四三八,九九三	三三四,八七五	一二一,二六九
平均…………			

自明治四十一年 至大正十二年	二七、四三七	二〇、九二九	六、五〇一

註、大正十一、十二兩年は豫算なり。

又預金部には、其の本質において、又は資金の運用において、種々なる缺點を有するもので、第一に預金部とは一箇の官廳なりや又は特別會計なりや不明である。第二に預金部の諸規が舊式であつて現在には適應せぬ點が多い。第三資金の性質が一定して居ない。第四細民階級の預金を其の預金者に緣遠き資本家の方面に貸付けらるゝ事が多い。

大體斯樣なわけで今日大藏省預金部の改造論が次第に聲高くなつて來たのは當然である。

然るに加藤現內閣時代となつて多年の宿題であつた大藏省の預金部は愈々改正される事になつた。十月末大藏省議で決定せる事項は(一)大藏省預金法案(二)大藏省預金部特別會計法案、(三)大藏省預金部規則(勅令)案、(四)預金部特別會計規則及び現在理財局國庫課の一係に過ぎない預金部を如何なる程度に擴張するや而して預金部改造に要する經費如何等で、今期議會提出の關係及び豫算編成上最も急ぐ必要ある二法律と預金部擴張程度及び豫算についても種々審議した。斯うして確定した二個の法律案及びその要項を示すと左の通りである。

大藏省預金法案要綱

一、大藏省に預金部を設置し法律命令の結果に依る預金は直に大藏省預金部に納入せしむ

一、大藏省預金部の資金は國家公共の利益となり確實にして有利なる方面に運用す

一、預金部資金の運用に關し重要なる事項は預金部資金運用委員會に諮問すべし

一、大藏省に預金部資金運用委員會を設置し大藏大臣の監督に屬せしむ

一、大藏大臣は當該年度の預金部資金運用に關する大體の計畫を樹て該運用規定及び資金運用その他重要事項を委員會に諮問したるうへ大藏大臣において之れを決定す

預金部特別會計法要綱

一、大藏省預金部の收支は特別會計とす

一、該特別會計法歲計年度は當年四月一日より翌年三月末日までとす

一、該特別會計の歲入は法律勅令に依り預金運用に依つて生ずるところの利子既に運用せる資金の回收せるもの等を云ひ而して歲出には當該年度の運用資金及び預金利子竝びに大藏省預金部所用の事務費並びに俸給費等を云ふ

一、預金利子は現行預金利子特別會計法に依り一般

會計を經由して支出することになり居るも預金部特別會計の新設と同時に預金利子特別會計中この規定を廢止して一般會計を經由せず直ちに預金部特別會計より支拂ふことゝす

一、政府は大藏省預金部特別會計の歲入歲出決算を每年議會に提出することを要す

預金部擴張

現在の大藏省預金部は同省理財局國庫課の一係たるに過ぎざるが之れを獨立せる部制に擴張し而して名稱は現在通り預金部とす

而して右のうち預金部資金運用の範圍については大藏省預金法案には單に國家公共のため確實且有利なるものとのみなつて居るが、同法施行規則には公債地方開發資金、社會事業資金、產業商工業資金等に運用する旨その運用範圍を更に明確にする事になつた。預金部資金運用委員會は大藏大臣を會長とし、委員約十五名を置き、委員には大藏、內務文部、農商務、遞信の各次官並に關係官、日銀、勸銀、興銀各總裁、產業組合、同中央金庫當事者並に民間の學識經驗あるものを任命する筈である。斯くて擴張され改善せられた預金部の下に資金課、運用課、調査課の二課乃至三課を設け、同部の事務遂行を最も公明且完全ならしむる筈である。

勤儉奬勵に關する政策並に其の方法

戊申詔書と國民精神振作に關する詔書を奉體して

奢侈抑制に努めて居る現內閣は國民一般に勤儉を奬勵する事となり國民精神の振作更張に關する詔書の下つた一周年目の十一月十日を期し日本內地全國に「勤儉週間」を行はしめたが其の勤儉奬勵に關する政策旨趣並に其の奬勵方法等は左の通り。

勤儉奬勵政策要項

昨秋大震の餘殃が未だ銷えず現下內外の情勢が頗る多事であるに拘らず依然浮華放縱の弊が矯正せられないのは寒心に堪へない今や國民精神の伸暢を期するは事極めて緊急の要務にして此の時局を

濟ふ第一歩は戊申詔書並に國民精神振作に關する詔書の御趣旨を奉體し上下の別なく一般を擧げて質實剛健の民俗を作り勤儉力行の國風を作り國力の充實を計るにある、勤儉奬勵の趣旨、機關並に方法の概要を示せば次の如くである

第一、勤儉奬勵の趣旨

一、戊申詔書並に國民精神振興に關する詔書の趣旨を一般に普及徹底せしめ國民をして必ず之れが實踐躬行を期せしむること

二、質素勤勉貯蓄の道德的並に經濟的意義を宣明し且力行の必要なる所以を明示する事

三、刻下我が財政並に經濟の難局にあるを明かにし國民の反省自覺を促すこと

四、現在並に將來の國際貸借の情勢に鑑み貿易改善の必要を說き出來得る限り國産品を以て外國品の使用に代へしめ特に製作品については外國品たると內國品たるとを問はず之れが消費を抑制するの要あるを闡明すること

五、生活を簡素にし社會上の各種習慣を改善するの必要に就て國民の覺醒を促すこと

六、公債應募、債券購入、郵便貯金、簡易生命保險其他の方法に依る貯蓄を奬勵する事

第二、勤儉奬勵方法

一、總理大臣より勤儉奬勵の告諭を發する事

二、宣傳方法　新聞雜誌と連絡を計り宣傳の協力を求め勤儉奬勵に關する冊子を作成頒布し勤儉奬勵に關する講演の開催並に活動寫眞の利用をなすこと又各學校では學生々徒兒童に對し勤儉奬勵の訓話をなすの機會を多からしめ勤儉奬勵に關するポスター、標語並に唱歌、民謠の懸賞募集をなし汽車電車內及び停車場學校寺院など適當の場所にポスターを揭げ劇場活動寫眞館又は寄席等において幕間を利用し幻燈その他の方法を以て勤儉奬勵の趣旨に宣傳せしめ尙ほ郵便切手、汽車電車の切符、官公署發行の印刷物及び消印等に勤儉奬勵の標語を記入すること

三、年四回勤儉週間を定めその週間中は特に國民擧つて勤儉貯蓄の實を擧ぐること

四、舶來品卽ち優良なりとの觀念を打破し國産品を紹介し且その事業を奬勵すること

五、國定敎科書に今一層進んで勤儉奬勵の趣旨と之れに關する事項を加ふること

六、贅澤品の輸入並に消費に關しては正確なる統計を發表し之が使用を抑制すること

七、既設各種貯蓄機關の活動を促すは勿論都市に於ては官公署軍隊學校會社銀行工場等を單位とし貯蓄機關を設けしむること



支那勞働者の生計調査

高橋月南

生計費の調査といふ事は容易でない。先年來連された高田保馬博士は嘗て東京深川方面に居住せる職工の生計費に就いて調査した、それは博士が受持つて居る數十名の大學生に依賴して數千名の職工の生計を實際に調査したのであるが、大概の家では見榮を張つて實收以上の支出を申出るので、その判別に大變苦心したと云ふ事である。誰しも自分の臺所を立派に見せたいのは人情である。併し夫れでは折角の調査も徒爾に歸してしまう。高田博士の職工に對する此の生計調査は日本に於ける最初の生計調査であつたのだ。文部省でも之れまで幾度か調査したが僅かに俸給生活者の分だけ何うやら調査した丈けで種々の事情に制せられて他は滿足でないとの事である。地方の調査としては、高田博士が廣島市の社會事業講習會に招かれて行つた時、京都市民の生計費を調査した材料を手にしたと云ふ事であるが、之が或は地方においての嚆矢かも知れない。

この大連に於ても未だ正式に調査したものはない先ごろ滿鐵の社會課で社員の生計費に就いて調査したが、ヤハリ勝手元を覗かれるのを嫌がると見へて滿足の回答を得られなかつたさうだ。一系統の下に在る滿鐵社內の調査でさへさうで有るから多方面に亘つた一般的調査の困難は言ふ迄もなからう。此くの如き次第であるから、今玆に掲載する支那人勞働者の生計費も等しく杜撰を免れないが、過去約二年間に亘る調査であつて、幾分彼等生計費の基準を窺ひ知る資料にはならうと思はれる。

甲種勞働者といふのは幾分なりとも技術を有するもので、それは左官、大工、石工、鍛冶工、機械工油房工、炭礦常傭者、洗布仕上工、靴工、菓子工、

表具工、炊事夫、常傭車夫、電車運轉士、車掌、機關夫及び乘用馬車夫等であり、また乙種勞働者とは一般の雜役夫を總括したものである。此種の調査は各職業によつて分類するのが至當であるが、同じ大工でも山東省のものと直隷省のものとは生活狀態が自ら異なつてゐるから、此處には便宜上それを各地方別とする事にした。本調査に際して日本領事館、滿鐵會社調査課の手を煩したことを感謝する。

一、山東省卽墨地方民

◆**甲種勞働者**　先づ彼等の日常食物を調査する必要がある。大連及び滿洲地方に出稼に來る支那人勞働者の全部は農民である。山東省は元來土地肥沃な農産地であつたが、氣候温和の爲め人口の繁殖力甚しく、土産物のみを以て生活することが出來なくなつた結果、農民等は遂に苦力となつて海外に出稼ぎする樣になつたのである。過去數十年間は最も生活難に追はれたので、彼等勞働者は食物に對する本能が極度に制限され、我等日本人の眼から見れば殆んど動物に近い生活に甘んじて居る。從つてその常食の如きも頗る簡單で且甚だ疎末である。

山東省卽墨地方から出稼ぎに來る者の常食を見るに、それは小米、白麵、包米麵、干甘藷、豚肉、菜鹽油類で、その一日の所要高は小米四錢、包米麵六錢、菜鹽油類が二錢、合計小洋十二錢といふ安價なものである。之れは極端に切りつめた生計費であつて一箇月の生計費は此の割合に幾らか高まる。食料は月四圓三十二錢平均だが、衣服費、散髮料及び靴代、其他間食賃や小遣錢などを計上すると、何うしても五圓に達する。夫れに家賃が加はる。家賃は合宿所でも一日三錢掛るから、之を合せて最低の生計費が六圓、一日の生計費小洋二十錢と見れば太した間違ひはなからう。食料の一箇月及び一箇年の概算を表示して見ると凡そ左の如し。

品名	一箇月所要高			一箇年所要高		
	數量	單價	洋額	數量	單價	洋額
小米	七	一五	一、〇五	八〇	一五	一二、〇〇
白麵	二	一一	三三	四〇	一一	四、四〇
包米麵	三五	一六	二、一〇	四〇〇	〇六	二四、〇〇
豚肉	五	二六	一四	八	二八	二、二四
菜鹽油	不明	不明	七〇	不明	不明	八、五〇
計			四、三二			五一、一四

◆**乙種勞働者**　乙種勞働者も甲種勞働者に比較し

て大差なきも常食が少しく異なつて居る。白麵は高價であるため、その代用といふ意味で干甘藷を食用として居るが、それで彼等の食料は一日平均十錢內外、一箇月僅かに三圓三十六錢位であるから、前者に比して九十六錢程の安値となる。之を一箇年に通算すると、約四十一圓七十錢であるが、之れは大體の標準と見る外ない。一箇月の所要費は小米一圓零五錢、包米麵三十錢、干甘藷一圓五十錢、豚肉十一錢、菜鹽油類四十錢、計三圓三十六錢、一箇年の食料は小米十二圓、白麵二圓二十錢、包米麵二圓四十錢、干甘藷十七圓、豚肉一圓四十錢、菜鹽、油類六圓七十錢、卽ち前記の通り合計四十一圓七十錢平均となる。彼等の生計費が如何に安價であるかは此の計算によつて見ても瞭かである。

二、山東省濟南地方民

◆**甲種勞働者**　食物の種類は前項と大差はないが濟南地方民は干甘藷を食せず、その代用でないにしても、一般に稻米を食用する。一日の所要食費は十三錢、一箇月の生計費は小米一圓零五錢、麵類一圓四十錢、豚肉一圓零四錢、菜鹽及び油類八十錢、計四圓三十九錢で、その外に被服、湯錢、理髮、交通費、交際費、享樂費、其他諸雜費を合算しても之等は僅かに三圓を出でないから、結局のところ一箇月七、八圓の生計費である。更にこれを一箇年に直してその所要を見るに先づざつと左の通り

小米	一二、〇〇	麵類	二四、〇〇	稻米	四、八〇
菜鹽油類	七、八〇	計	五〇、五八		

◆**乙種勞働者**　等しく濟南地方の勞働者でも、之を甲種と特別に區分するのは少しく困難の點があるが、今二三者の平均せる生計費を示せば

品名	一箇月所要高 數量	單價	洋額	一箇年所要高 數量	單價	洋額
小米	七	一五	一、〇五	八〇	一五	一二、〇〇
麵類	二	一一	二二	二五	一一	二、七五
高粱	四五	〇五	一、七五	三五〇	〇五	一七、五〇
豚肉	不明	不明	一〇	六	二八	一、六八
菜鹽油	不明	不明	三五	不明	不明	六、三〇
計			三、四七			四〇、二三

三、山東省益都地方民

◆**甲種勞働者**　此の地方の民は小米と煎餅を常食としてゐる。濟南地方民と比較すれば稍々生計費が

高いやうだ。一箇月の所要費は小米一圓三十錢、稻米二十二錢、煎餅一圓七十五錢、白麵四十四錢、豚肉十四錢、菜鹽油類六十五錢、計四圓四十錢である更らにこれを一箇年に計算して見ると、小米十三圓五十錢、稻米三圓十五錢、煎餅十八圓五十錢、白麵五圓五十錢、豚肉二圓二十四錢、菜鹽油類九圓五十錢、計五十二圓三十九錢となる。

◆**乙種勞働者**　下級勞働者は谷子麵と稱するものと小米を常食として居る。彼等の一箇月の生計費は前者と大差なく、三圓四十五錢見當で、その內譯を示すと小米一圓十二錢、谷子麵一圓四十錢、白麵三十三錢、豚肉十錢、菜鹽油類五十錢等である。また一箇年の生計は大要左の如くであつて、一箇月の割合よりせば、幾分割安であると云へる。

小米	一二、〇〇	谷子麵	一六、〇〇	稻米	二、二五
白麵	三、三〇	豚肉	一、六八	菜鹽油	五、〇〇
計	四〇、二三				

四、山東省西部地方民

同地方民の甲種勞働者は包米麵を、乙種勞働者は高粱を常食として居る。此の兩勞働者の一箇年の經費を取調べて見ると概要左の如くである。

品名	甲種勞働者 數量	單價	洋額	乙種勞働者 數量	單價	洋額
小米	九〇	一五	一三、五〇	—	—	—
包米麵	四、〇〇	〇六	二四、〇〇	一一〇	一一	一二、一〇
白麵	三〇	一一	三、三〇	—	—	—
干甘諸	—	—	—	二五	一一	二、七五
豚肉	七	二八	一、九六	不明	不明	一七、〇〇
菜鹽油類	不明	不明	七、九六	五	二八	一、四〇
計			五〇、五六			三五、八五

五、直隸天津地方民

直隸省は山東省に比較し幾分贅澤の傾向を帶びてゐる。食費は一箇月五圓近く消費し、麵類の如きも中等品を使用し、豚肉の消費量も多い。一箇月の概算費用を示せば、甲種勞働者は四圓九十四錢、乙種勞働者は三圓八十五錢で、一箇年の經費は

品名	甲種勞働者 數量	單價	洋額	乙種勞働者 數量	單價	洋額
小米	八〇	一八	一四、四〇	八〇	一八	一四、四〇
包米麵	—	—	—	三五〇	〇六	二一、〇〇
中等麵	三五〇	〇七	二四、五〇	—	—	—
稻米	八	四八	三、八四	四	四八	一、九二

品名	甲種 數量	單價	洋額	乙種 數量	單價	洋額
豚肉	一二	三〇	三、六〇	六	三〇	一、八〇
菜鹽油	不明	不明	九、六〇	不明	不明	五、〇〇
計			五五、九四			四四、一二

六、奉天省奉天地方民

奉天省附近の勞働者は殆んど農民であつて、其の生活程度甚だ低く隨つて生計費も低廉である。殊に娛樂費、交通費、衛生費、被服費等は非常に節約して居る。甲乙勞働者の一箇年經常費は

品名	甲種勞働者 數量	單價	洋額	乙種勞働者 數量	單價	洋額
高粱	一八	一四	二五、二〇	一八〇	一四	二五、二〇
硬米	五	四〇	二、〇〇	二	四〇	八〇
白麵	七〇	一二	八、四〇	三〇	一二	三、六〇
豚肉	一五	三〇	四、五〇	七	三〇	二、一〇
菜鹽油	不明	不明	一一、〇〇	不明	不明	五、〇〇
計			五一、一〇			三六、七〇

七、奉天省錦州地方民

此の地方のものは奉天地方民と大同小異で、特筆すべき點はないが、只だ同地方における中位の勞働者は高粱に包米麵を常食として居る。一日の所要高は高粱五錢、包米麵四錢、菜鹽油類二錢、計十一錢平均であつて、最下級の勞働者は一日八錢位の程度であるらしい。甲乙兩種の一箇月所要食費は

△甲種勞働者

高粱	一、四〇	白麵	三六	豚肉	三〇
包米麵	一、二〇	菜鹽油類	七五	計	四、〇一錢

△乙種勞働者

高粱	二、一〇	白麵	二四	豚肉	三〇
菜鹽油類	四〇	計	二、八九錢		

八、大連及び其の地方民

大連市内及び大連近郊に居住する支那人の勞働者に就いて調べて見ると、地方民とは異なつて、都市だけに一般に贅澤の風習を帶びてゐる。

◆甲種勞働者　彼等の收入は頗る不定不動であるが生計費は略々一定してゐて太した相違がない。今こゝに獨身者で一箇月十七圓前後の收入あるものゝ經常費を示せば凡そ左の如くである。

食料費	七、一八錢	住居費	〇、九〇錢
被服費	一、七六	衛生費	〇、二一
交通費	〇、八〇	享樂費	〇、六三
雜費	二、三〇	辨濟金	二、〇〇
計	一五、七八		

都市生活は部落生活に比較して約倍額に達するもそれ丈け收入も多い。殊に都市の勞働者は勞役が激

烈であるから、その勞苦を慰藉する享樂費、交際費といふものが嵩む。茲にその享樂費として計上すべきはものは酒、煙草、觀劇等である。外に支那人の通有性とも見るべき賭奕又は富籤類似に消費する費用も可也にある。然しそれは固より一般生計費と見做すことが出來ない。次ぎに一箇月十二、三圓の收入ある者の勞働者に就いて調査すると

◆**乙種勞働者**　これは各種の雜役夫十四名に就いて調査したもの丶平均である。

食料費	六、二九錢	居住費	〇、五〇錢
被服費	二、八六	衞生費	〇、二七
交通費	〇、二五	通信費	〇、〇六
交際費	〇、九四	享樂費	〇、九九
雜費	一、二七	計	一三、四三

この統計から見れば、一箇月四十三錢不足することになるが、これは概算であるから、毎月不足するやうな事はあるまい。本表には被服費二圓八十六錢を計上してあるが、これも毎月購入する譯でないから、其間如何なる融通も出來るわけである。一箇月十二、三圓の收入のものでは貯金や送金は至難であるが十七、八圓の常收入のものは大概二、三圓の貯金をして居る。福昌公司のやうに一箇所に集團して世話を受けてる者は殊に貯蓄して居る。本表の衞生費と稱するは彼等の湯錢、理髮、石鹼等である。また居住費は何れも合宿になつて一箇月五十錢が最低で一泊の料金は二錢から三錢である。

前記の甲種勞働者の生計費中に辨濟金二圓を計上してあるが、彼等は大概小遣錢を前借するので、その返濟に充當する爲めである。相當年數を經て土地の事情にも通じ、且つ賭奕をやるものになると、年中借金に追はれて居るものもあるさうだ。之等は番外であるが、多少でも貯金をするか、郷里へ送金するかして、大體は堅實に生活して居る。

要するに、現在大連市及び其の近郊に居住せる支那勞働者の生計費なるものは、其の出身地方別によつて合宿生活を營んで居るので、食糧の如きも一樣でなく、從つて生計費にも相違を來すことは前記各表によつて明瞭である。併しその食糧によつて殆んど一箇月の生計費が定まるのであつて、其他の被服衞生、交際、享樂、居住、通信の諸費及び雜費等は毎月一定して居ない。此等は大要甲乙兩勞働者の標準によつて窺知することが出來る。杜撰ではあるが多少の參考ともならば幸甚である。

奉天に於ける職業婦人

在奉天　田　原　漠　東

満洲に在る日本婦人は各階級を通じて母國の婦人に比し職業的自覺又は自營自活と云ふ觀念が至つて乏しい。併し之れは單に婦人の無自覺のみと難ずる譯に行かぬ。第一社會組織から見ても、母國は各種の商工業が發達し、筋肉方面にも精神方面にも婦人の職業が自由に與へられて居るが、滿洲は一部の特殊技術に屬する職業か又は未婚者に限定された職業が有るのみで、各階級の婦人をして一樣に適合した職業を求むる事が出來ない。今一つは婦人の大部分が已婚者で、實際自由に職業に從事することの出來る未婚者が至つて少く、然かも未婚者の多くも家庭の經濟程度が内地に比して高位にある爲め、生計の一助として殊に内職をする必要を認めない等の事情がある。斯うした種々の事情が滿洲における日本婦人の職業的觀念を薄からしめて居る。

併し近時中流階級者を中心とし一部上流階級婦人の間に職業熱が擡頭せんとして居るのは爭はれない事實で、此の中には歐米の男女自由平等にかぶれた婦人の就職論を唱へる者もないではないが、實際の經濟的自覺から或は女中を廢し或は支那人ボーイを解雇して婦人自らが女中となりボーイとなつて家計の經濟を立て樣とする者も漸く增加して來た。其の目的が何れにあるにもせよ、婦人の間に這うした覺醒の芽生ゑて來たことは喜ばしいわけで、這は婦人の職業が男性と同樣に生活的義務であり道德であるといふ自然の法則に適へるものである。殊に例の帝都大震災が滿洲の婦人にも一大ショックを與へた結果は一層職業的に目醒めて來た傾向が見ゑる。今奉天に於ける各方面各階級に屬する婦人の職業に就いて其の槪要を調査すると左の如くである。

▲看護婦　女性の職業として最も適はしいものとして女性の志望するものは看護婦である。目下奉天には滿鐵病院を初め、赤十字病院、市中の各開業醫に勤めて居る看護婦が總計二百五十七名を算す

る。年齢は十七、八から三十歳前後までゞ、滿鐵病院に奉職する者は規定の年齢と資格者に對し入學試驗を施行され、及第者は講習所に入學する。講習所に入學した者は準滿鐵社員として宿舍、被服、食料日給等の給與を受け、修業後は二箇年の義務勤務をなす事になつて居るが、市中の者は一定して居ない待遇も滿鐵病院は初級三四十圓から七八十圓までを最高として居る。待遇の點は市中の看護婦も之と大差ないが、滿鐵病院の看護婦の特典としては勤務時間外、毎日生花、裁縫、茶、作法等を敎へられ、他日彼等女性が一家の主婦として家庭を經營するに差支ない智識を養はしめて居る。斯くして滿鐵病院の看護婦は未婚當時充分に嫁入仕度を整へて一家の良妻として社會に出されるのである。

▲女事務員　此處に言ふ女事務員とは事務助手で簿記其他の事務を執るのだが目下滿鐵地方事務所を初め市中の銀行會社を合し此の女事務員は約十名ばかりに過ぎない。此等は悉く高等女學校又は實科女學校を卒へた者で待遇は三十圓から五六十圓までの程度である。此種の職業婦人は事務能力及び性質の上から男性に比して遙かに良好な爲め、從つて求人者も多いが、多くは中流以上の家庭の女性で結婚期を差控へて職業婦人の群に投ずることが結婚に際し惡い影響を及ぼすと云ふやうな因襲に囚はれ之れを忌避する傾向がある爲め、女事務員の數が振はないのである。今後此種の職業婦人が社會的勢力を示す迄には相當時日を要するだらう。

▲保姆　婦人職業の一としての保姆は專門に屬するもので特殊の智識及び手腕が必要である。目下奉天には滿鐵經營の幼稚園二箇所に六人の保姆が居て内二名は未婚者で他は已婚者である。學歴は高等女學卒業程度であるが、前述の如く普通の學校の女敎員と異なる特殊の知識を要する爲め、實際に多くの幼兒を取扱つた經驗者でないと到底その勞に堪へない。從つて之れは女學校を出たばかりの未婚者よりも一家の主婦として又實際上の賢母としての已婚者の方が理想的でありまた適任者でもある。待遇は初級五六十圓から八九十圓までゞ、婦人の職業としては他人の想像し得られない苦心を要するが、其の半面には又樂しい所もあるらしい。

▲電話交換手　未婚婦人の職業として看護婦と共に一般的に志望さるゝは電話交換手で、目下

奉天局に九十名、市中の銀行會社に七名、滿鐵社內に二十四名勤務して居る。電話交換手は女性の墮落の第一歩であるとかで、嚴格な家庭では之れを嫌忌する傾向あるも、此の如きは過去のことで、今日の電話交換手は取締の嚴重と女性其者の自覺と相俟つて女性の職業として他の蔑視から超越した地位に置かれてある。殊に最近は勤務時間外にお茶、生花、裁縫、作法その他將來一家の主婦として必要な敎育を受け、また婦人としての處生的訓練をも施されて居る。唯最も繁激な事務である爲め、往々にしてヒステリック性に陷るの弊があるから、此點は考慮の必要があらう。待遇は初給三十圓から最高七八十圓迄で年齡は十五、六歳から最高二十歳まで。

▲タイピスト　は財界好況時代相當に社會から需要されたが、財界不況後は滿鐵其他二三の官衙及び會社に限られ、現在は滿鐵地方事務所に三名市中に五名、都合八名あるに過ぎない。先般奉天地方事務所ではタイピストの講習を行ひ、相當の修業者を出した、其れまではタイピストの雇用難を訴へて居つたが、最近は却つて就職難の聲が高くなつた婦人の職業としては至極適當したもので收入は四十圓から六七十圓まで、殆ど未婚者である。

▲産婆　産婆には滿鐵病院を初め、赤十字病院市中の婦人科醫院、その他に勤務するものと、一戸を構へて家業の傍ら營むものとの二種類がある。前者は殆んど未婚者で後者は殆んど有夫の婦人である後者は婦人の副職として馬鹿にならぬ收入を擧げて居る。勿論活動の範圍に依つて收入に多寡があるが少し手廣く活動すると、一箇月裕に百圓からの收入を得ること左のみ困難でないと云ふことだ。一方各病院に籍を置いて居る産婆は俸給制度で、七八十圓程度であるが、一定の産科の外に産婆への心附があるから、之れも收入は一箇月百圓位になる。目下各病院に二十八名、市中に二十名程ある。

▲女給　玆に謂ふ女給とは洋食店のウエーターを指すものである。財界の不況に依る花柳界の凋落に引代へ、洋食店は異常に發展し、自然ウエーターの需要を增加した。青春の血に漲る女性が濃艷な化粧を施し純白のエプロンを掛けた容姿は、男性を魅惑せしめ、カフエー全盛時代を描き出したが、奉天には現在此種の職業婦人が實に百餘名を算して居る。彼等の中には之を第一階梯として淪落の淵に落

行くものが少くないので、奉天警務署は昨年之が防禦の一策として十八歳以下三十歳以上と年齢に制限を附したが、社會は遂に之を容れず、其後日ならずして此の制度は廢棄された。彼等女性の多くは自營自活と云ふ自覺を有せず、唯華やかなそして享樂的な職業として濃艶なエプロン姿に憧憬し、前後の思慮分別もなく其の群に投じ、常に多くの異性と接觸し、遂には奈落の淵に沈淪し行くのである。收入は月給制度とチップ制度とに別れ、月給制度は食つた上に月二十圓内外、チップ制度の方は本人の活躍如何により相當の收入を得ることが出來る。

▲遊藝其他師匠

藝術味を帶びた職業として婦人憧憬の標的となつて居る遊藝音樂の師匠は近時餘程減少した。好況當時は琵琶、琴、三味線、バイオリン、マンドリン、長唄、清元、常盤津、其他お茶、作法、料理、裁縫等各種の婦人師匠が相當有つたが、昨今は頗る凋落し、僅かに琵琶、三味線琴、長唄、裁縫位で、然も之れを職業として渡世する丈けの勢力を有するものは僅に三四を數ふるに過ぎない。目下奉天における專門的の師匠は琵琶四名三味線五名、琴三名、長唄二名、裁縫三名で、收入は琵琶三圓乃至五圓、三味線、琴、長唄各五圓、裁縫に至つて最も少く僅々四圓内外である。

▲藝妓と酌婦

藝妓を特殊職業婦人として他の職業婦人外のサークルに置く事は、職業其のものゝ性質から觀察したもので、之れもヤハリ職業婦人に相違ない。否彼等は寧ろ滿洲の職業婦人界における優者であらう。目下奉天に於ける藝妓は百九十三名、酌婦は二百三十七名に達して居るが、彼等が實收以外に月々揚ぐる金額は實に莫大なものである。彼等の實質に就いては已に業に社會に知悉されて居るから玆には之を記さぬ事にする。

猶ほ此の外髮結、仲居、飲食店の女中、各家庭の女中、宿屋の女中、裁縫職、病院の附添女、劇場のお茶子等があるが、至つて少數で、此等を一々數字的に調査する事は至難である。蓋し奉天に於ける最近の此等職業婦人は概數一千餘名内外と見て可からう。之れを內地都市の人口率に比較すると遙かに少數であるが、之れは前述したやうに母國と滿洲とが社會狀態を異にして居る結果で、必ずしも婦人の職業的無自覺の致す所とは斷じ難い。然かも奉天に於ける此等職業婦人は其の大部分が未婚者で母國に見

るやうな已婚婦人の就職者が至つて少數である。夫れで母國の婦人の樣に普遍的に職業に就かしめんとするには、怎うしても先づ家庭工業の途を啓き、一般の婦人に家庭的副業の方途を授けることが緊要である。滿洲における日本人の生活も下級社會の家庭は寧ろ母國の生活難以上の生活難を訴へて居る。從つて此等の家庭婦人は家庭的副業に依る收入の增進を希望して居るが今尙ほ夫れが與へられて居ないのだ。若し此の方面の途が開かれたならば、滿洲に於ける家庭工業は豫期以上の發達を來たし、婦人職業の上に一革命を齎らすであらうと思はれる。

簡易保險の貸付範圍

簡易保險積立金の自作農創設維持資金貸付は自作農者に對する土地資金にのみ限られて居たが關東廳遞信局管內に於ては內地と多少事情を異にしてゐる關係上官有地の拂下げ又は滿鐵附屬地の貸下等に依つて比較的容易に土地に對する權利を獲得するを得且つ之が貸金も費用も內地に比較すると多額を要せないため土地資金としての貸付けは左程痛切に必要を認めない然るに現在滿洲に於ける邦人自作農者は其數に於て甚だ多いとは云へないが偶々果樹其他の栽培に從事するものも資金の供給に關する適當なる機關がなく又その方途もないため經營上甚だ困難を來たし從つて事業不振の狀態に陷つて居るから之等を救濟する爲めに簡保貸付の範圍を擴張し今回左記の如きに對しても貸付する事になつた。

(一)果樹園創設經營資金　滿洲梨、林檎、葡萄等の栽培に適し邦人の之れに從事するもの逐年多きを加へつゝあるも本事業は六、七年を經過するに非ざれば相當の收益を擧ぐるを得ず從つてその間多大の投資を要し企業容易ならざるのみならず現に經營する者と雖も高利負債の爲め困難の狀態にあるもの尠くないから之が救濟の意味にて貸付ける。

(二)水田開墾資金　近年水田開墾事業提唱せらるるに至り相當有望なるも灌漑の設備等に多額の資金を要する爲め容易に着手し得ざる狀態にあり而して此の水田開墾の企業は食料經濟上に重大なる關係を有するに就き水田開墾の爲めにする耕地整理並びに灌漑設備等に要する資金を貸付ける。

(三)植林創設經營資金　鐵道の枕木用として尤も適當なる胡藤樹栽培等有利なる事業あるも之れが創設には苗木の購入植付等に費用を要するのみならず五、六年を經ざれば收益を擧ぐるを得ざる爲め着手するもの至つて少いが本事業の如きも邦人の經濟的發展を助成する意味にて貸付ける。

社會問題彙報

人民一人の一日平均儲金高

現在世界強國の人民一人平均一日に儲ける金高は米國貳圓五拾錢、英國貳圓、佛國壹圓五拾錢であるのに對して日本は僅かに五拾四錢さいふ有樣である故に全國民が大いに奮發して少しも怠ることなく從來よりも數倍の收入を得るやうに圖らればならぬが之れと共に大いに節約して少しでも多くの餘裕を造り我國のこの危機を救はればならぬ斯く云へば現在我々は出來る限りの節約をして居るのであるから最早これ以上如何とも仕難いさいふ者があるかも知れないが全國に於て最も窮迫してゐる農村でさへ婚禮、葬儀、宴會等の場合に於て實に馬鹿々々しいほど無駄な費用と時間さを消費してゐる況や都會においては無駄費ひの多いことは今さら論ずるまでもない事である酒や煙草を少しく節約するだけでも大した事である故に今國民全體が互ひに相戒め相競ふて各少しづゝ從來より多く働くか或はまた少しづゝ節約するかによつて各人が其の所得の一割だけを從來より多く蓄積するさいふことは左程困難なことではない。

今若し全國民が一致して斯くするときは從來よりも一年間に十二億圓だけ多くの餘裕が我國に生ずることゝなる而して現在我國の國税は七億圓であるが此の樣なものに最早や苦しめられる事もなくなるし喧ましく云はれてゐる軍備費の如きも四億に過ぎないから此の十二億圓をこれに用ふれば從來の三倍に當る軍備を整ふることが出來る又之を人材の養成に用うるならば一人に一箇月五十圓づゝ與ねることして年々二百萬人の人材を養ふことが能きる又之を以て軍艦を造るならば一千萬圓の軍艦を年々百二十隻造ることが能き之を十箇年間積んで置けば元金だけでも百二十億圓になるから之を以て一朝有時の場合には進んで戰爭をやる事もできるのであるさ。

記念業に養老保護院の建設

普通の養老院はあり又釋放者を保護する機關もあるが刑餘の老衰者を引取つて世話をしてやらうさいふ特殊の機關はなかつた處が今回堺市田出井町大阪刑務所の大阪控訴院管內司法保護事業研究會では東宮御成婚記念事業として金三十萬圓を募集し大阪府下に養老保護院を建設し關西各地方刑務所から釋放された六十五歲以上の老人達を扶養する計畫に着手した先般東宮御成婚の砌り六十五歲以上の老齡者百八十名に假出獄の恩典があつたが釋放の喜びも束の間で何處へ行く目當さへなく忽ち途方に暮れた事實から見て實に社會政策上緊切の事業といふべきである設立趣旨書なるものは左に掲ぐるところの如し。

天下最も憐むべきものありとせば老齡力衰へ親なく子なく眞個賴るところなきものに如くはありますまい自己の汗に食ふことも出來す路頭に餓死することも出來す終に法網に觸れて受刑の身となるもの、多數あるは周知の事實であります近來釋放者を保護する機關即ち保護會は到るところに設けられました之れは實に喜ぶべき現象でありますが然し働く力のない老衰者の一生を世話してやるまでの設備はありません左なくとも刑餘の人は社會から排斥されるのでありますから働く力のないものが刑期滿ちて釋放されるとき果して何れの方面に縋り附いて救はるゝのであるか之を見殺しにするに至つては人道上忍ぶからざる

當然ではありますまいか然らば之を普通の養老院又は慈善病院に送ることが出來るかと云へば養老院や慈善病院は此の如き刑餘の老衰者を引取つては吳れないのであります何故引取らないかといふ事は改めて申すまでもなく又之を强制するわけには行きません（中略）此の必要を充たすために如何にしても速に養老保護院の設立を促さねばなりません何人もその必要は認めて居りながら至難の事業であり相當の準備を要する事業でありますから之まで率先して主張するものさへもなかつたのでありますが我々司法保護事業に從事するもの茲に深く覺悟するところあり同心協力して第一擊を擧げた次第であります（下略）。

勤儉週間と禁酒禁煙の宣傳

日本內地では國民精神の振作更張に關する詔書の煥起された一周年月の本年十一月十日を機とし一週間に亘り全國的に「勤儉週間」を行つたところ各敎化團體を初め個人的にも努力したもの多く或は此の週間を無肉日又は强制貯金日とした向もあつた其の勤儉力行宣傳の一節は禁酒禁煙の宣傳だが此中大いに注意を要する點があるから茲に揭げる。

道行く皆さんよ考へても見るがよい三十一億の內債と十五億の外債と合せて四十六億餘の借金を背込んでその上に本年上半期の入超が六億六千萬圓で正貨は減るばかり歐亂前まで日本國民の一人當り借金負擔額が四十六圓八十七錢だつたのが此頃では八十圓二錢となつた借金も殖ゐる代り財產も增ゐるのなら枕を高くして鼓腹擊壤もよからうが財產は減る借金は增すでは何うすることも出來ない斯んな中に「酒は百藥の長」なんて呑氣なことをいつて國民的良心を痲痺さして高肝に醉ひ潰れてゐる杯は餘りに暢氣である米國はあれほどの富力を擁しながら一九〇〇年に禁煙令を一九二二年に禁酒法を公布して「全米禁酒」を斷行して居るではないか男一匹が二十歲から六十歲まで每日晩酌〇・三六リットル（約二合）つゝ飲むとすると此の全量五千四百リットル（約三十石）になる〇・一八〇三九リットル（一合）十五錢年一割複利とすると此の金高が驚くなかれ五萬八千七百六十一圓そのくせアルコールの毒害が千六百五十二ポンドこゝから精神異狀の低能も白痴も生れて我國の社會狀態をメチヤクチヤにしやうとする昨年度稅務監督局の調査によると造酒高が十三億四百二十一萬五千八十六リットル（七百三十三萬千九百三十五石）一升の實價二圓とすると此の金額十四億六千六百三十八萬七千圓これに弁酒を加へると約十五億が日本國民の飮酒料だ一方煙草の方はと見ると全體で約二億七千萬圓が每年煙になつて消ゐて行く然るに國民の敎育費は約四億圓で飮酒喫煙代の五分の一にも足らない之れで賢いそして健全な第二の國民などうして造られるかであると云々。

勢ひ付ける朝鮮の水平運動

朝鮮に於ける水平運動と言はれて居る衡平社では十月下旬京城の本部で中央執行委員會を開いたが其の結果當局に對して衡平運動の了解を得て主義貫徹に努める事を決議した此の爲めに執行委員の趙貴容及び吳成完の兩氏は東京に派遣される事になつた所が兩氏上京の目的は此の他に我が水平社とも將來同戰線を執つて何かうと云ふ重大使命が其の裏面に潛まれて居るので朝鮮總督府及び警視廳邊りで今から神經を尖らかせて居る朝鮮各道に散在して居る白丁階級は現在尙ほ五十萬からあり彼等は何れも過去八百年に亘つての賤視迫害の歷史を持ち一般人の輕侮の心は未だに頑固に沁み込んで居るがため勢ひ彼等は自分達だけの社會を成して屠殺皮革業を生業として居り此の暗い運命は我が水平社と殆ど同じで

あるのみならず彼等の戸籍面には今以て部落民を示すところのト印がついて居る。

斯うした虐げは聽て彼等の間に賤民より普通民へ人間としての自由を獲得する所の衡平運動となつて現はれ其の運動は逐次熾になつて來たのであるが今回の水平社との提携も主義の合致からして豫て唱へられて居たもので夫れがために去る九月中には衡平社代表者金慶三氏が上京し水平社側の平野小劍氏等と會見した事もあり又先頃警視廳スパイ問題の遠島哲男も八月中に此の提携打合せに朝鮮に赴いたりして兩社との間は大分接近して來たから近く兩氏の來京に依つて愈々水平衡平兩社の提携は纒まるものと見られて居る。

滿洲に於ける結婚の新傾向

日本古代の風習として毎年十月頃から翌年の春までは年中最も結婚の多い季節であるそれは概れ各方面とも總てが閑散であるからでもあらうが日本とは多少風習情調を異にして居る滿洲でも最近著しく其の傾向が殖へて來た今大連におけるその一班を調べて見ると此の二三年前から十月より翌年の四月頃までの間には先づ一箇月に三十組から四十組位の目出度い殷盛振りを示してゐる而して最近の結婚者はこゝ六七年前と全く變つて來て以前の樣に贅澤なことを省いて非常に地味に所謂實用を好む樣になつたのでお互に費用のかゝらぬ樣に一切の虚禮を止め唯形ばかりの式をと云つた具合に披露宴の如きも簡略に而も安價な支那料理位で濟ませてゐるから「高砂やこの浦舟に帆を揚げて」等の晴れやかな式は殆ど今日では絶つたと云つてもよい位であるそして結婚前の娘さん達が婿選びをするにしても昔のやうな舊套を脱して聟とする男の勤め先や俸給額などを餘りに喧しく言はない樣になつた又若い男女の間殊に結婚前の者は縹緻の良否を口にしたものだが近頃では此も殆どなくなつた事は目立つ現象であらう。

一方女子の方では一般教育の程度が向上し女學校を出てゐない娘さんは甚だしく減り從つて男子の方も中等學校程度の者が滿洲には殊に多いので此れ等の人々は結婚に先だつて一通り先方の樣子を聞いた上に直ちに直接談判を開始してゐるが此式は意外の好績を納めてゐるので近來此の種の直談交渉が次第に殖へて行く傾向があるそれは現在のところ相當教育のある者に限られたことで無教育者には先づ皆無といつてよい位である從つて娘の親にあたる人々も最近非常に時代に眼ざめて自分直接で婿たるべき男に接近して居るが之れは仲介者から山的の話を聞くよりも總ての事が明白になつて恰も家族的であり且つ雙方が打解けて最も纒まるに都合がいゝとの事である之等も時代に應じた一進歩であらう。

不完備なる滿洲の兒童施設

滿鐵社會課の兒童養護事業は現在の兒童遊園とこれから着手しやうといふ兒童倶樂部と兒童相談會位のもので何れも完全な理想遂行の出來て居るものはない多く豫算に制限されて中途半端にその名目を止めて居る程度である兒童遊園の如きも單に小遊園を形造つてそこに兒童用のブランコ其他遊戯設備を一通り備へたまでゝ兒童を中心に兒童の遊び相手となつて兒童遊園本然の目的を遂行すべき人が居ない從つて其の兒童遊園の多くが道草喰ひの丁稚小僧、支那人ボーイの遊場、苦力の午睡の床に使用される樣になり從つてよく兒童倶樂部が如何に經營されるかも未知數であるが兒童遊園の如くならざれば幸である。

精神の拔けた形だけのものが幾つも施設されるよりも一個の徹底的施設が何れ位結果に於て良好であるかは言ふまでもない兒童館施設の計畫があつたことは聞いたがその後何う

なつたかは知らない滿洲の土地で兒童遊園の如きは冬は殆ど利用出來ぬのであつて此間の兒童の生活は誠に氣の毒なものである斯る時に一兒童館の存在は何れ位意義があるか知れぬ社會課の兒童養護事業は一意この冬季施設に傾注してもよいと思はれる猶斯る方面に對する一般市民の冷淡さは何うしたものか大連に設置される運動機關の悉くが大人の爲めの施設であつて曾て兒童の爲めの施設を見たことがない放任されて居る兒童の爲めの施設に就いて運動が起つてもよからうとは某教育家の苦言だが蓋し他山の石であらう。

西公園内綠山散歩道の風光

大連の西公園改造費は二十萬圓乃至三十萬圓を要すると見做され差當り繼續費として大正十二年度豫算に金一萬圓を計上されたが昨年は遂に着手に至らず本年になつて漸く起工を見るに至つた併し豫算が少いため一時に大改造をする譯に行かぬので先づ自動車を通ずるに足る山腹の横斷道路をと云ふ事になつて春日町綠橋の袂から松山町に通ずる新道の開鑿が企てられたのであつた綠橋から左に山腹を縫ふて上つて行くと春日池の畔に出て其處から右に折れて綠り色濃き松林の間を過ぎて從來建てられてある山腹の石亭の上邊から再び左に折れてドン山の下を通り右折して松山町古澤氏宅の門前に到り市街に入つて民政署長官舍横より伏見町停留場に達するもので道路幅四間、道路延長約一哩四分一強、工費豫算總額金一萬八千圓を註されて居る。

道路以外に阿亭五戸及び共同ベンチ十個を要所々々に配置する事になつて居り既に大體の道筋は形成されて本年末迄には地均しまで進捗すべく來春解氷を待つて砂利を入れる豫定であると云ふから春霞を吸ふての散策にはお誂へ向である尙は南花園上の廓見丘は從來も春や初夏の家族會的小運動會などのとき利用されたもので眺望の佳なる事は言ふまでもないが夫れから新道を進むに從つての眼界は大連市を一望の裡に收め大連灣は恰も盆池の如き感じを與へ海猫島、柳樹屯を越へて大和尙の山々も指呼の間に蜿々として親しみと懷しみを抱かせるやうな氣圍氣を形づくつて居る自然の快味は實に絶景と言ふも過言でない老虎灘と星ヶ浦とは素より大連附近に於ける景勝の地として推奬するに足るが綠山の散歩道を辿るもの必ずや寧ろその景勝の優るものあるを發見するに違ひない殊に老虎灘と星ヶ浦が郊外にあつて遊覽に時間を要するに反し綠山散歩道は朝な夕なの短時間に而も高層清澄なる松籟の山氣を呼吸しつゝ悠々自適し得る處は遙かに老虎灘と星ヶ浦を凌駕するに足る一度此の山道を辿らば大連市民たるもの「何故斯かる絶景の勝地を今日まで放任して置いたか」と寧ろその施設の遲かりしを悔ゆる事であらうと大いに褒めちぎる者がある。

警視廳で調べた婦人の犯罪

文明が進歩し一方に世の中が不景氣になるにつれて婦人の罪も非常に多くなつて行くが右について警視廳醫務課技師金子醫學士の調査した所によれば婦人の犯罪は矢張りその性質によりて特異な傾向を持つて居るが今も昔も變りなく多いのは嬰兒殺しと放火で婦人獨特の犯罪と云つてもいゝ位に多いそして此頃の樣に文明が進んで來ると婦人特有の犯罪も方法も增加し變化して行く嬰兒殺し放火の外は婦人が之れまで家族制度によつて閉ち込められて居た爲め極く狹い範圍の愛情關係によれる嫉妬、不和、繼兒虐め位のもので其の方法も暴力を用ひる樣なことは大變少くなつたが化學が進んで藥品が容易に手に入る樣になつてからは猫いらずを飲ませるとか昇汞水を浴せかけるとかする樣になつて來た。

種類も婦人の敎育が普及して智力が進むに從ひ多樣となりデパートメント等の熾烈な飾慾が多くなるに連れて萬引が一段と增して行く何れも皆婦人の虛榮心と生理上の病的使用に因るのだが賣淫と窃盜は世の中が不景氣になつて行くにつれて多くなり前者は夏季特に多く擧げられる之れから時候が益々寒くなつて衣食住に困る樣になると家計困難のものに一寸した窃盜をやるのが多くなるそれは婦人の意志が薄弱で人の物にたよるくせが付いてゐるので起りやすいのだが併し統計の示すところに依ると女の犯罪は男の三分の一の數しかない夫も情狀酌量の出來る程度のものだ冬はまた火といふ事に關聯して起るせいか婦人の放火も普通より多いとの事である。

勞働者の崇拜する偉人傑士

勞働者の智識や信仰の程度並に其の思想的傾向を其筋に於て調査した處に依ると隨分振つたものが多い就中彼等の崇拜する偉人と云ふものは如何なる人々であるか全國に亘る三千五百人の勞働者が見る偉人なるものは誠に千差萬別である卽ち天皇陛下と云ふのが最も多數を占めて七百三十九人に上りその次が乃木大將で四百八十一人、第三が釋迦で百八十八人、第四が百二十人の楠正成それから一段下つて八十五人の豐臣秀吉、六十六人の日蓮五十人の基督、四十九人の西鄉隆盛、四十八人の伊藤博文と云つた調子で孔子、和氣淸麿原敬、二宮尊德、神武天皇、大隈重信、聖德太子、親鸞、東鄉大將、賀川豐彥、菅原道眞德川家康、空海と漸次減少して行つてナポレオンが十二人、大石良雄、中江藤樹、佐倉宗吾、山縣有朋が之に次ぎマルクス、ワシントンと云ふのが七人もあり皇太子殿下、吉田松陰、廣瀨中佐、リンコーンが六人、それから井伊直弼、フランクリン、楠正行、德川光圀加藤友三郞、レーニン、ロイドジヨージ、カーネギー、北條時宗、加藤淸正、西園寺公望加藤定吉、八代六郞、澁澤榮一、中山ミキ、カイゼル、ウイルソン、ソクラテス、ニユートンとなか／＼奇拔なのが飛び出す。

次いで政岡、國定忠次などがあると思へば一休和尙、出口王仁三郞、ゲーテ、尾崎行雄があるそれから一票になつて來ると兒島高德、高山彥九郞、谷村計介、橘中佐、平重盛、坂本龍馬と云ふ忠臣もあれば大谷光瑞、白隱和尙、田中智學、最澄と云ふ古今の僧侶もあり石川五右衛門、足利尊氏と云ふ皮肉なのもあればパウロ、ルーテル、トルストイ、ペテロ大帝、アレキサンダー、クビライ、ガレリオ、ハンニバル、ロツクフエラー、イプセン、エヂソン、ナイチンゲール、ラツセル、ドストエフスキーと云つたのもありまた中には大山山本、田中、財部と云つた軍閥もあると云つた調子で頗る興味深いものがある。

盛んに增加する失業者の群

最近東京市萬世橋職業紹介所の失業者調査によると自由勞働者約三萬に對して一般產業方面の技術勞働者は約十五萬と云ふ多數に上つてゐる之れと相對して日本有史以來初めての現象としては知識階級の失業者の激增したことで東京市及び府の各紹介所を通じて職を求めて來るもの約一萬に上り知己緣故を賴つて職を求めつゝある者は實に三萬にも及んでゐる之れを全國的に見れば約三十萬人以上にも及んでゐるとの事である此のうへ政府の行財政整理によつて東京を中心に全國の各官廳から高等官二割、判任官以下三割の割合で約四萬からの智的勞働者が失業して是等の人々もまた社會のドン底の渦中に卷き込まれる譯でそれも漸增の傾向にある來春の年度替りをきつかけに夫々馘首されるさうだが左うした曉にはどんな有樣となるであらう。

・豊原同所長の談では失業者はこの夏以來益々増加するばかりで各紹介所とも其の捌け口に心を痛めてゐるが此の一箇月間は殊に甚だしい此の上に行財政整理による失業者四萬からの犠牲者が出て來ては全くどうして好いか見當が付かない是等の人々の馘首後における善後策に就いては政府にまだ何等の方針が立つてゐない様だ我々としては是等の人々の事に就いて心配せねばならぬのだから今からこうした方法を執るかを各紹介所と共に考へてゐる次第である何にしてもこの不景氣では今年の暮あたりから來春に掛けての悲慘な不景氣の様子が偲ばれるわけだが此の失業者激増は英國、露西亞、墺太利、獨逸、伊太利を初め殆んど全く世界共通の現象である。

姙産婦の保護と兒童の診療

佛國などは姙産婦保護と云ふ事に重きを置き勞働婦人に對しては産前産後八週間を休ましむる事になつて居る獨逸の如きも年收一千二百五十圓以内のものは强請して之を勞働保險に加入せしめてゐる産褥基金として月額廿五錢宛を積み一箇年以上となりて出産したるものには産褥金として十圓宛を與へる事になつてゐる其の外自己の乳にて兒を育てたる場合には授乳賞與として現金或は現品を與へられる巴里に於ては兒童特典費として十萬圓を豫算に計上し一家にて五名以上の兒を有し貧困なるときは三箇月毎に十二圓宛を支給する規則が出來てゐる我國にては餘り發達してゐないが姙産婦相談所も到る處に設けられ産婦の九割七分は此處に來るとのことだ。

其他に姙産婦通信保護所といふものがあり産婆並に巡回看護婦によつて姙婦を調べ書面にて一々注意を與へてゐる之れは都會よりも地方に多いが佛國では無料にて産婦に牛乳を與へてゐる這は母性保護の爲めであること勿論である又家政救助の設備として家政婦を養成してゐるそれは英國の家政補助協會にて家政婦養成の爲めに講習會を開くのと同様である又紐育の一年間の産婦は十四萬と稱されその四分の一は産院で世話になつてゐる如何に産院を利用するものが多いかそれによつて知る事が出來るであらう我國にて近頃これが大分盛んになつて來たが未だ思ふやうな設備を見ることが出來ないのは遺憾である兒童相談所や兒童診療所の設備も日と共に増加しつゝあることは喜ぶべきことであるが兒童診療所の如何なるものなりやを知らない父兄中には病兒を連れて行くものがあるとの事であるから診療所と共に小兒病院の設備をなすこともまた極めて必要であると思はれる。

後家さんを保護する新法案

内務省社會局では來る五十議會に日本に於ては最も珍らしい寡婦保護法案を提出すべく各府縣社會課にその諮問及び調査方を命じた外國にては既に該案が實施され相當好成績を收めてゐるが我國は未だ此事なく感化保護を要する寡婦五萬人及びこれが許にある兒童十五萬人あり而も年々激増の傾向を示しつゝある而して不良少年は此の寡婦の許に養育される者が大部分を占め家庭は極めて貧困である是等の事情に鑑み彼等不遇者の爲めに一定の扶助料を給し救濟の實を擧げ様といふのである右に付き大阪府社會課員の語る所によれば具體的の調査はまだ出來てゐないが早晩これは實現されるもので實現までには整理節約の折柄相當時日を要するだらういよ〳〵實現の曉は生活難の爲めに寡婦が密淫賣すると云ふやうな事もなくこれに伴ふてまた不良少年も漸次減少することになるであらうと因みに老人や不具者に安樂な生涯を終らせる爲め内務省社會局では今度百五十萬圓位な豫算で老癈收容所を設ける計畫を立てたさうだ。

學生問題

◆不良少青年の簇出は社會上の一個重大なる問題で何處の國でも其の防止と救治に苦心して居る◆都會には不良老年も不良壯年も居るから不良少青年があるのは當り前だといつて了へば夫迄だが之れが前途多望の第二の國民たるべき學生間に多い處から見て等閑に附し難いのである◆海外異域の日本人集團地たる滿洲の都市にも墮落學生と之れより生ずる不良少青年とまた危險思想の持主もあると云ふ有樣だから油斷は能きない◆現に我が皇儲殿下御成婚祝典當日に大連市に不穩極まる宣傳ビラを撒布しやうと企てた突飛な青年があつたではないか◆或人の調査に據ると大連市中には下宿屋などにごろ〳〵して學校へ通つて居る少青年が凡そ二三百名もゐて其の一部は極度の放縱生活を辿り◆或者は遊里に足を運ばせ或者はバーやカフエーに入浸り又或者は外國の主義思想を鵜呑みにして理屈張つた事を言つて居る◆と云ふ話だが一體その原因は那邊にある乎といへば頗る複雜で都市環境の影響、監督の不行屆、家庭の不取締なども重なる原因に相違ない◆併し吾々の觀るところでは學生の墮落と不良少青年の簇出は一面今の敎育制度の然らしむる所であると思ふ◆昔の寺子屋敎育は四書五經を中心にした謂ゆる士大夫の學を授けたもので即ち主として士人たるの道を敎ゐたものだが今の敎育は丸ッきり違つて居る◆人間が多くなり社會が複雜になり物質文明の花が入亂れて咲き誇るといふ現代に單純な一本調子の寺子屋敎育の適せぬことは固より言ふ迄もない◆が今の敎育は支那の碩學辜鴻銘翁のいふ通り全然西洋流の模倣でまだ頭の出來てゐない子供に理屈ッぽい事を敎ゐて昔の東洋流の敎育のやうに先づ聖賢の道を說かないから何うしても理屈ッぽい小ざかしい人間を作り上げる◆それに今の敎育は科學敎育、智術敎育、職業敎育であつて社會に出て直ぐ役立つやう又生活し得るやうにと專ら其の方にのみ力を注ぎ人格の陶冶とか理性の涵養とかには餘り重きを措かない◆要するに智術偏重の敎育であるから當世に役立つ怜悧な者は幾らでも出來るが人間として一番大切な信義、友愛、交情といふ道義觀念の發達したものは次第にその數を減じて來た◆印度の詩聖タゴールは東洋も西洋文明に惡化されて何事にも人情味が薄くなつた

と嘆いたが夫れは機械的物質文明と此くの如き智術的教育の齎らした結果だ◆斯うした教育を受けた學生が理屈ッぽくなり我儘になり放縱になりそして墮落するのは當然の歸結ではあるまいか◆明治の初めには中村敬宇、福澤諭吉、新島襄などいふ人物を中心にした各特色のある教育が行はれたが官學でも私學でも今日は組織的、規則的、機械的となつて了つたので師弟間の情味といふものが餘程薄くなつた◆故杉浦重剛翁の稱好義塾とか留岡幸助翁の思齊塾とか金子雪齋翁の振東學社とか其他多少は人物中心の特殊教育が殘つて居るけれども滔々たる時代の潮流は教育をして益々巧利的智術的たらしめねば已まない◆それに生徒が殖ゑれば教師も多くなると云ふ一方で此間を規則で繫ぎそして形式的に遣るのだから双方の情意がシックリと合はぬ事になる◆其の結果は學生は學生、教師は教師といふ風になり生徒は先生や教師の云ふことを馬耳東風と聞き流し經驗も乏しく思慮も定まらない身で勝手な眞似をするので段々惡化してしまふのである◆一般に個人思想が發達したのは結構だがその個人思想が利己主義となり一轉して放縱危激となり殊に血氣未だ定まらざる少青年が青春の血の高鳴るがままに一人で勝な手道を歩けば何うしたつて躓くに極つてゐる◆そこで不良少青年の防止策又は救治策としては現在の教育制度を根本的に改めるのが先決問題で寄宿舍制度の如きも改善すべきものだが併し之れは固より一朝一夕の能くする所でない◆英國では都市に遊學する少青年を五人、十人、二十人といふ風に各家庭で預り親切に間違ひのない樣に世話して居るといふ事だが滿洲邊にそんな篤實な家庭があるか何うかは問題だ◆二三箇所か又は一箇所に學生共同宿舍を設け百人から二三百人までの少青年を親切に世話もし監督もすると云ふことにしたら青年學生の墮落を或る程度まで防止し得るだらうと思ふ◆尤もこれは監督者その人を得ると否とが問題の中核だ學校の寄宿舍制度が崩壞がちなのは要するに情味に富んだ確かりした監督者が居ないからである◆近時流行の少年團や青年團又は處女會なども間接に少青年の惡化を喰ひ止め得る相當の力とならうが夫れのみでは足らない◆何にしても此の社會上の重大問題を雲烟過雁視して防止策も救治策も講じないと云ふのは大いに間違つた事である。

不安と動搖

◉封建時代には君臣又は主從の關係が世襲的に從つてまた不變的に繋がれて居たので此間には道義と人情が溢れて居た◉尤も此の時代の道德は上から下へ强ゆる服從道德を主とした爲め往々タイラントを發生せしめて忠臣、義士、孝子を泣かせた◉斯樣な偏務道德が人智の進んだ現代に適せぬのは勿論であるけれども今日のやうに何事も物質的、機械的、規則的、組織的となつても困るわけだ◉人が多くなり物が複雜になれば科學的に之を按排しそしてオルガニゼーシヨンと云ふことが大切になるが其の一方にのみ片寄つてしまふのも宜しくない◉會社でも銀行でも事業といふ事業は總べて株式組織となり總裁、社長、重役には夫々任期があつて共和國の大總領のやうに任期が來れば去り重任しても先づ二期位のものである◉それは致方ないとしても其の結果は首腦部の交迭毎に社員その他の從業員に不安の念を起させ兎角動搖がちとなる◉不安と動搖を生ずる結果はそれが事務の能率にも影響するが最も困るのは上下の交情が薄くなつて幹部と社員との間が冷かになつてしまふ事である◉先頃の郵船會社の御家騷動はこゝから起つたものと考へられる封建時代の昔にも御家騷動はあつたが今のとは筋が違ふ◉內閣の交迭も頻繁となり政府の官人も植民地の總督、長官又は地方長官たる知事などは內閣の交迭毎に動く◉人間も一ッ處に永く停滯して居ると溜池の水のやうに腐ると云ふから新陳代謝とやらで時々入替はるのも結構だが植民地の首腦者などは少くも四年以上乃至八年位は腰を落付かせる樣にしたい◉政務官と事務官の區別を立てた以上は事務官を成るべく動かぬ樣にして事務に勵精せしめるのが本式だ會社又は銀行等の事務員とても同樣である◉是等のものは大體餘り動かぬ事になつて居るが彼等の首腦者及び幹部を視ること人形の首か煙管の雁首かと云ふ有樣で敬愛の念が薄くなるのは困つたものだ◉斯うして何處にも其處にも團體はあつても團體的情味が薄くなり延いて情味中心の社會が次第に崩壞しつゝあるは社會上憂ふべき現象である◉主腦部の交迭毎に之を送り迎ふること恰も旦に呉客を迎へ夕に越郎を送る娼婦のやうな事になつては益々以て問題だ◉これも社會問題の一として識者の考慮を煩したいものだ。



菊花を眺めて

裾野山人

寒さが急にやつて來た。空には灰色の雲が浮び、北風が梢を鳴らしてピユー〳〵と叫び、その北風に煽られて木の葉が雨と降りそゝぐ。斯うした寒空に菊ばかりはまだ花を付けてゐる。部屋の内に入り取れた鉢植ゐの菊花は、窓外の光景を知らぬ顔に、今を盛りと咲き誇つて居る。

花の魁けをなすものは梅花で、花の殿りをなすものは菊花だ。春寒料峭といふ時節に、梅花がチラホラと咲き出づる有様は、雄々しくもあり、また氣高くもあるが、內地の田舍あたりで、藁葺屋根の古色蒼然たる一軒家のほとり、人はまだ袷を着て羽織をあほつて居るのに、一本又は二本の梅の木の枝に白いやつが蕾を破つて綻び初むる光景を思ふと、梅花の少い滿洲においては、一入の懷しさを覺ゑしめる。が菊花はそれにも增して雄々しくもあり、氣高くもあり、また床しくもある。

北風が吹き、霜が降りると、秋櫻といはれるコスモスの花もいぢけて了ふが、菊ばかりは一日々々と花の幅を大きくする。僕の家では、毎年缺かさずに菊を栽培する――主として妻の道樂半分に――ので、今年も

思つてゐる。それが今でも部屋の中を飾つてゐる。大分くたびれて來たがまだ餘命はあるだらうと五十鉢ばかり作つた。外の荒凉に引代へ、菊花のあるばかりで、室内は淋しくない。

菊は花ばかりで實が成らない。植物の生命の宿るところは根であるが、菊は殊に根を生命とし、根を繼續者とし、その根分けによつて古きを送り新らしきを迎へるのである。

菊はまた花を生命とする。花あつての菊だ。花の優れたものは實に乏しいと云はれるが、菊もまたその通りで、菊は要するに花だけの植物である。併し勿論薄ッぺらな花ではない。菊の花には重味があり、床しさがあり、氣高さがあり、そして風霜を凌いで咲き誇るところに毅然たる意氣が窺はれる。上部ばかりうまい事を云ふ人間の輕薄才子や、白粉と絹物で着かざるハイカラ婦人や、操守を二三にするデモ政治家や、そんなものは如何に綺麗に見ゐても取柄がない。菊花に劣ること數等だ。

實際有つた事かどうか知らないが、王政維新の明治の初め、横濱の或る遊廓のたをやめが『降るあめりかに袖は濡らさじ』と唄つて、さる赤髯の毛唐に美事肱鐵砲を喰はしたと云ふ話がある。女でも、旦に呉客を送り夕に越客を迎ふる女でも、昔は斯んなのがあつたと云ふ事だが、今日の婦人に斯樣な氣節凜然たる女があるか何うかは問題だらう。況や菊の如き品位と氣節を備ゐた婦人をやだ。

女ばかりぢやない、男も概して氣節とか操守とかを一向顧みないものが多くなり、そして策を弄し、利を射り、下らぬ事にまで理屈をつけて騷ぎちらすと云ふ有樣になつた。菊の如き品位も氣節も意氣も床しさも

ない。有るものには有らうが無いものゝ方が多いやうだ。

『黄菊、白菊、その外の名はなくもがな』とは、俳句だけの話で、桃色、うら金、赤、いづれを見ても菊には一樣の品位と氣高さとが備はつて居る。此頃は種類が益々多くなつた。

種類が多くなつたのは、人工の致すところで、朝顔でも、ダリヤでも、葵でも、人工によつて種類が多くなり、隨つて花がいろ〳〵に分れて來た。鳥類でも家鳩の種類は餘程殖ゑて來た。併し餘りに人工を弄して自然の本質を害するのは面白くない。朝顔でいへば、彼の花びらの千切れ〳〵になつた奴や、また菊でいへば、猩々の冠りとか云つて、花瓣が細長くダラリと垂れ下つた奴などは、自然の本質に背いたもので、見ても妙でない。人工も過ぎたるは猶ほ及ばざるが如しである。

小菊の楚々たる風情、野菊の有りのまゝの風情、いづれも亦とり〴〵に捨てがたい趣がある。滿洲に咲き誇る野菊、それを眺めつゝ、數行の過雁に思ひをやるのも一興である。

我が日本帝國は、菊花を皇室の御紋章とし、旭日を國旗の表とする。天の日は萬物化育の本源であり、菊の花は品位と氣高さとにおいて他の凡ゆる花の上に擢んでゝ居る。我が帝國は自然にして最も好きところを備ゐた珍らしい國である。國民はこれを忘れてはならぬ。

菊の壽命は永い。枝頭に蕾を持ち、ぢり〳〵と次第にそれを開き、焦らす、急がず、根氣よくその花の幅を廣めて行くところ、これ此の花の壽命の永き所以である。ごつしりとして、落付いてゐて、少しも慌てた

所がない。そこに士太夫としての又紳士としての面影が存する。

今時、唐の淵明の眞似などするは、夫こそ時代錯誤の甚だしいものに相違ないが、南山に菊を植ゑて時に超然として世外に嘯くのも面白からう。心機一轉の妙用として此上もあるまい。人寰の塵を浴びて、汗水垂らして、名奔利走ばかりするのは、如何に勞働の世の中とは申しながら、褒められた事でない。そんな餘裕のない生活は人生に幸福を齎らさないで却つて多くの不幸を齎らすだらう。

菊花大授章を胸にかけて、之れ見よがしに威張り歩く人よりも、自然の菊花を翳して子供や民衆と共に樂む人の方が奥床しい。菊花の馨りがそこに一段と薫じて來る。

菊花を眺め、その本質を思ひ、品位の高い事、氣節のある事、根氣と持久力のある事など考ゑて、衷心忸怩たらざるもの幾何かある。僕のやうな凡夫は取分け氣耻しくなる。

人間には廉耻心といふものが大切だ。斯んな曲つた事をするのは耻かしい、斯んな惡い事をするのは耻かしい、と廉耻心の動くころに自ら道德があり、良心が露はれ、人格が磨けるのだ。大慚怩なくんば大開悟なしだ。然るに今の世の中には蛙の面に小便をヒッ掛けたやうに洒々然たりノコノコ平たる耻を知らない面の皮の厚いものが多い。斯ういふものが豪いといつて持て囃される。

菊花を眺めて感無量だが、筆に任せて書くと、何處まで脱線するか分らないから、先づ此邊で切上げる事にしやう。終りに臨み菊花に向つて頓首再拜する。（十一月）



呪はれた結婚

奉天 傳源芳

貰ひ婿が嫌さに自分で焦り求めたK子の結婚……

其れはK子に取つて呪はれた結婚であつた。さうした結果になつた罪はK子自身の負ふべきものか、彼女の兩親の罪か、それとも彼女とMと云ふ銀行員との結婚の月下氷人となつた知人某の罪であらうか。私は其等のことに就いて今さら精透的な理智の批判を試みたくない、それは餘りに冷酷であるから……。唯呪はれた彼女の運命の表現に同情して此の筆を執るに至つた迄である。

× × × × × × × ×

S町の兩側に植ゑられたポプラの樹もそろ〳〵芽ぐみ、時々氣紛れな風が黄い砂埃を吹き立て、空には紫がかつた雲が動き、それから遠霞が懸つて、春がしのびやかに訪れて來た。昨年の四月、京城の高等女學校を卒業し、永い間の寄宿舍住ひから開放されて、この時恰も温かい兩親の愛に滿ちた家庭の女となつたK子は歸宅して間もなく兩親から早くも結婚談を持ち掛けられた。

之までの學生生活は彼女に取つて樂しい中にもまた寂しいものであつた。之から先は父母の愛に抱擁されつゝ思ふ存分に伸びて行かう……。K子が學窓を去つて兩親の許に歸るまでの希望としては這んな無邪氣な子供らしいものに過ぎなかつた。然し今這うして兩親から親しく結婚の話を聞かされて見ると、さうした考ねはなかつたにもせよ、滿ざら惡い氣持もしなかつたのである。

K子は女學校で新らしい敎育を受けた。袖の下に忍ばせてノラもマグダも讀んだ。華やかな明るみの世界に憬憧する心は丸々と盛り上つた乳房の下にハチキレる程充ちて居た。無論生理的變化に伴ふ心理的變化もあつた。兩親も充分それを知つて居たればこそ結婚談を持ち出したのである。

併し兩親がK子の結婚を急いだのは他にも理由がある。それは家庭の事情である。K子の家庭はK子と一人の弟と兩親の四人であつたが、父は二十幾年來銀行に勤めて居たところ、昨年老朽陶汰で罷免され、その時受けた退職慰勞金と在勤中貯蓄した金を資本に現在のS地で特産商を始め、毎日取引所に出入して特產物や錢鈔の仲介商賣をして居るのであつた。至つて嚴格な男で、何ちらかと云ふと世事に疎い頑固老爺であるが、不幸にも一家の長男でK子にはタッタ一人の實弟が、幼少のとき猛烈な腦病を患つた結果低腦兒となり小學校も尋常科二年までで退學し、今年十六歲にもなる男が何もせずにブラ〳〵し居て唯大飯ばかり喰つて居るといふ始末である。兩親も此の子の爲めには隨分頭を痛めたが、斯うなつて了つては何うにも手が付けられないので、之も何かの因緣と諦めるより外に仕樣が無かつた。

怎うせ長男はあの通りの不具者だから一家を相續することは出來ない。併し女ではあるがK子と云ふものがあるから、此の子だけには相當の敎育を授け、年頃になつたら然るべき貰ひ婿をして、そして一家の後を繼がせやう。其の上で自分たち老夫婦は長男と別に一家を構へて餘生を送らう………。兩親の間には這うした話がチヤンと纒つてK子の卒業の日を樂しんで待つて居たのである。

晩春のうら淋しい一夜、父親は又K子を膝近く呼び寄せて、家庭に於ける一伍一什の事情を云ひ含めた上貰ひ婿をする事についてのK子の決心を問ふた。此の前もK子は母から二三度これと同じ事を聞かされたがその時は唯何となく恥しい樣な氣がしたに過ぎなかつた。

「まだ學校を出たばかりですもの、家庭を持つなんて………」

と曖昧な返答で話を避けて居た。然かし今這うして父から嚴格な態度で決心を促されると曖昧な一時遁れの返事をする譯には行かなかつた。それに年老ひた父が相場師の仲間に混つて氣苦勞の多い取引所に出入りすることが彼女には氣の毒でならなかつた。家庭の事情が自分に結婚を早めると云ふことも夙に氣付いて居た。だが兩親の希望する貰ひ婿には何うしても賛成する事が出來なかつた。

「お父さんのお話は御尤ですが………」

決心を問はれた時、K子は胸をワク〳〵させながら怎う返事しやうかと思つたが、此際いゝ加減なことを云ふのは好くないから、自分の心底に潛んで居る眞實を告白するより外ないと考ねた。でK子は恰も森嚴な

る法廷に於ける被告人のやうな心理狀態になつて兩親に說いた。

「結婚をお否みする譯ではありませんが、貰ひ婿の結婚と云ふものは、世間にもよく例のある通り、どれも終りの好くないものだと申しますから、何うぞ篤くり考へさして下さいませ。世間でもそれを能くは申しますまい。私はそれを忍ぶといたしましても、若しも終りが面白くないと、世間の口の端がうるさうございますし、第一また一家のためにも好くないことだと思ひます」

K子は聲を慄はせつゝ憐みを乞ふが如くに斯う云つて父の顏を偷み見た。

親子の間には暫らくの間沈默が續けられた。先程からのK子の容子に注意して居た兩親の瞳には泪が滲んで居た。世事に疎い頑固な老父も今のK子の說には一言の反す言葉もなかつた。それを押切つて無理にも貰ひ婿をせよとは言へなかつた。沈默が續いた後、父は徐ろに

「イヤ能く解つた。俺の考へとしては、何分にも家庭の事情が事情だから、さうした方がお前の爲めにも弟の爲めにも幸福だらうと思つて、お母さんとも話し合つてその諒解も得たのだが、今が今と差迫まつた問題でもないのだから、お前も猶ほ能く考へて見るがいゝ」

斯うした一幕があつてその夜はそれで濟んだ。

それから事もなく約一箇月を過した。煤煙で黑ずんだ雪が一面に地上を覆ふて居た滿洲にも、新らしいミルクのやうな空氣が明るく顫ひ漂ふて、街路樹の何れにも、血の氣が漲り、競ふて若芽をふき出さうとする

など、何んとなく一體に春らしい氣分が溢れて來た。

其後のK子は何物にか捉はれた樣な暗い惱ましい思ひに日を送つて居た。學生から淑女の境涯に入つたばかりの彼女は、今更のやうに性に目醒めて、異性と云ふものに一入のなつかしさと執着とを感じ、そして彼女の全心は其の度毎にどうしやうもない衝動に虐げられて居た。

或夜の事であつた、K子の父が京城のT銀行に勤めて居た時も、罷めてS地に來てからも、形の影に從ふが如く、常に相共にして來た某が何か用事ありげにK子の宅を訪れた。K子と某の婦人とは京城時代からの交際でK子はこの夫人に隨分可愛がられたものである。K子は卒業して歸つて來てからも、殆ど毎日のやうに某の宅に遊びに行き、夫人と話し合ふのを何よりの樂しみとして居た。今その良夫が訪ねて來たのだからK子は兩親と共に出迎へ、そしてお茶を入れたりお話の相手をすべき所であるのに、是まで遊びに來た時には屹度さうしたのに、何ういふわけか、その晩に限つてK子は顏を見せなかつた。

某はK子の兩親と夜の七時頃から十二時頃まで何か秘々と話し合つたうへ立去つた。

其の翌日、K子は朝飯を濟ますと、取るものも取りあへず、昨夜來宅した某の宅に遊びに行くと云つて自宅を出たが、お晝過ぎまで遊んだ後、何時になく晴々とした顏をして歸つて來た。その晩、K子の父はK子を一室に呼んで、一箇月前の晩に話した貰ひ婿とは違つた他の結婚の話をしたが、此時の父の言葉には熱がなかつた。K子の父に對する態度もまた變つて居た。

「K子さんが近くお嫁さんになるさうな」

S地で這んな噂が立ち初めたのはそれから十日も經つてからであつた。間もなく驛前の〇〇寫眞館のカメラにK子の華やかな美しい姿が納められた。

「之れが見合ひの寫眞ですよ。此の島田に結つた姿は怎うです」

寫眞屋の技手はまだ定着液の中に浸つて居るK子の寫眞を目を細くして眺めた。

「何處の誰の令夫人になるんだらう」

寫眞館に來てゐた二三人の青年は、その寫眞を眺めながら、S地からK子を奪ひ去られるのが何となく苦痛であるかのやうに囁き合つた。この時己にK子は〇〇銀行に勤める某の媒介で〇〇のT銀行支店に勤めて居るMと云ふ銀行員と結婚することになつて居たのである。

高島田に結つた彼女の浮々とした樣子、出來上つて來る衣類や調度品を眺めて微笑む樣子、彼女には久しぶりに晴々しい日が來たのだ。そして婚禮の夜、黑の振袖を着て厚化粧したK子は、未知の樂しい新生活に入る第一歩の希望に燃ゐつゝ、黑紋付の媒介人や兩親等に護られて、夜の市街を人力車で驛に辿つた。K子に取つて此の夜は一番樂しく嬉しい時であつた。然しプラットホームで

「姉さんはもう嫁さんになつて〇〇に行くんかい。僕は明日の晩活動見に行くんだい」

とまるで子供のやうな事を云ふ實弟に遇つた時は急に暗い思ひに襲はれた。

其夜○○の一流料理店で結婚式が擧げられた。K子の新郎は髪をオールバックに梳き通した、筋の通つた鼻に金緣眼鏡を掛けた、色の白い立派な青年紳士であつた。

晴れやかな結婚式も濟み、圓らかな春の一夜も明けて、新郎新婦は新婚旅行をする事になつた。結婚式の翌日媒介人の某やK子の兩親はS地に歸つた。

其れから丁度十日目に初めてK子から父の許に簡單な便りがあつた。

「明晩の汽車でいよ〳〵朝鮮を經て主人の鄕里山口縣に參ります。その前一度お目に掛りたいと思つて居ましたが思ふに委せません。何れ歸つた上で主人と一緒に伺ひます」

新婚の夢を載せて旅立つたK子は、之れが禍のスタートとは知る由もなく、斯うして夫と一緒に汽車の中に肩を並べて分け隔てなく話し合ふことを無上の幸福と感じた。犇々と胸に押し迫まつて來る詩的な享樂の昂奮に醉ふて居た。もう彼女には、自分が一個の人間としての存在物であると云ふやうな、そんな理論的な抽象的な意識を有つて居る事が出來なかつた。不遇な父や哀れな實弟の面影も忘れて、觸れるもの、見ゐるもの、聞ゐるもの丶全てが、彼女たちの旅行を祝福して、太陽の光りそのものまでが滿ち溢れる喜びの血潮の輝きのやうに思はれるのであつた。K子は新郞を說いて思ひ出の多い京城に一泊し、旅館から同じクラスにゐた學友に電話を掛けて呼び寄せ、そして誇りげにその新婚姿を見せつけた。そして其の翌日の朝新夫婦の姿は下關から三ッ四ッ先の淋しい中間驛に現はれた。

K子の身としては、郷里の新郎の兩親や兄弟は無論のこと、親戚や隣り近所の者まで、大勢驛に出迎へて呉れるであらうと、列車の中で幾度となく鏡を出して化粧したり髮を梳つたりしたのであつたが、さて愈々當の驛に着いて見ると、誰一人出迎ひに來ては居なかつた。

失望……次いで不安……小さいK子の頭の中は亂れた。それと覺つた夫のMは

「列車の時間を間違へて居るんだな。Kさん、這んな田舍だから自動車はないよ。人力車と云つても知れたものだ。我慢して呉れなくちや可けない。アハヽヽヽ」

Mは事もなげに言つて、驛の前にゐた唯つた二臺しかない人力車を呼んで、携ねたトランクをその双方に乘せ、それから凹凸の山路を辿りつゝ、漸くMの家に着いた。

新夫婦が郷里に歸つてから二日目の晩であつた。スグ近くの森の中に夜烏が鳴き初め、空には遊星が浮いて、片割月は朧ろに曇つて居たが、家の前の空地に佇んで、その片割月を仰いで一人茫然としてゐる細い黑い影をMが發見した。それは我が新しらい妻のK子であつた。

「Kさん、そんな處に何して居るんだい」

Mは腫物にでも觸れるやうにK子の肩に手を掛けて顔を覗き込んだ。冷たい涙を蒼白い頰に傳へ口を喰ひ締めて居たK子は、何も云はず、Mに引かれつゝ其儘默つて淡い洋燈の點じてあるM家の一室に戻つた。Mも無言のまゝ腕を拱いで時々堪へ難いやうな嘆息を洩らした。

「ツゴウアルアスアサカヘル」
安東驛から發信したK子からの斯うした電報がS地の父の手に握られたのはそれから三日目の夕方であつた。この意外極まる電報を手にしたK子の父は、その電報を猶ほぢつと念を入れて見た上、直ぐ仕度を調へてあたふたと媒介人である○○銀行の某の許に走つた。
某もその電報を見て頻りに頭を捻つたが何とも想像のつけやうがなかつた。萬事はK子が歸つて來た上でといふ事になつた。兩親はその夜一睡もせず拂曉に着く列車を待ち焦れた。
翌朝列車の着く一時間前から、兩親は人目を憚るやうに驛の三等待合室に入つて、K子の現はれるのを待つた。軈て列車がホームに來て停車すると餘り混んでゐない三等車からK子が力なげに下車した。結婚の當夜とは打つて變つて、K子は髮も無雜作な束髮に結ひ代へ、瞳は涙で潤んで居た。兩親はK子を庇ふ樣にして拂曉の市街を家路に急いだが、やがて家に着いて戸口に入るとK子は大聲を揚げて其場に泣き伏した。一足遲れて媒介人である○○銀行の某も馳せ付けた。
「お前は怎うしたの、唯泣いてばかり居ちや分らないぢやないの、サア怎うしたのサ」
K子の母も半ば泣聲になつてK子に迫つたが、彼女は唯だ
「お母さん許して下さい」
と詫びするのみで、感情の昂奮した彼女は全く口が利けないのであつた。

やがて泣き濡れた顏を擧げて訴へたK子の告白は這うであつた。彼女がMと共にMの鄕里に歸つて、その家の戶口を入ると、Mの實父は庭先でまだ血の滲んだ馬の皮をなめして居た。二人が戶口を入ると直に狼狽へてそれを隣の納屋に隱くした。それまではK子も別に穢多とか朝鮮で云ふ白丁とかの事は思はなかつたのだが、その翌晩、村の靑年や娘たちが家の附近に來て

「穢多の倅の嫁はんには過分の代物だなア」

と怒鳴つたのを耳にしたので吃驚した。イヤぞつとする程に身慄ひした。K子はMにそれを糺す餘裕もなく、餘りの意外さに、無斷で家を飛び出し、狂人の樣になつて暗い田舍道を辿り、それから關釜聯絡船に乘つて朝鮮に着き、汽車に乘つてやつと歸宅したのであつた。

之を聞いた兩親と居合せた〇〇銀行の某は暗然として言葉さへ出なかつた。K子は附け加へて言つた、私は永久に生くる道を失つたのだから、寧そ死んで了まうかと思つて、關釜聯絡船の上で、幾度か海の面を眺めたと。彼女はさう言つて又泣き崩れたが再び蒼白い顏を上げて斯う叫んだ。

「總ては身から出た銹です、呪はれた私の運命の表現です」

K子の告白に依ると、たゞ譯もなく貰ひ婿の結婚が嫌な爲め、〇〇銀行の某夫婦に何處かの適當な男と結婚さして下さいと賴んだ、そして大いに焦つた結果が、這うした取返しのつかない破目に陷つたのであつたが、〇〇銀行の某が充分相手の男の素性を調べなかつたことも、多年交際して居る友人でもあり相當の地位に居

る人の媒介であるからと夫れに任せた兩親の不注意も、這うした不幸な結果を齎らした原因で、あたら純眞な處女を呪はれの結婚の犧牲に供し、永久に暗い社會に沈めたのである。

其後K子は深い物思ひに沈んで行くばかりであつた。過去の樂しかつたこと、嬉しかつたこと、それを思ふにつけ、心の中は一入暗くなるばかりであつた。幸福を奪はれて荒凉たる廢墟に葬り去られたに等しい光りなき將來、それを頭に描くと悲嘆の涙が止め度もなく落ちて來る。風なきに散る花の一ひら、夜の寂寞を破る女のすゝり泣き、K子の行末は何うなる事やら……

× × × × × ×

此の一篇を草して友に見せたところ、友のB君は熟讀した上『內地には水平社運動が起り、朝鮮には衡平運動が起るといふ時代に、穢多を蛇蝎視するやうな女には同情能きない。近代の婦人、殊に高等敎育を受けた程の女は、斯うした時代の進步にも目醒めて居なければならぬ筈だ。君の此の一篇の主人公たるK子は、高等敎育を受けながら思想は依然として古い、大いに囚はれて居る。僕はK子よりも寧ろその夫となつたMの方に同情する。新らしい女と思つたK子が、案外な古い思想の持主で、結婚後間もなく自分を振捨てた無情さ、社會の相變らず目覺めないのに泣いた事であらう』と。此の友の說には道理がある。併し私は或る處に起つた此の事實を唯有りの儘に書いた丈けだ。だから冐頭に理智の批判を試みたくないと斷つて置いたのだ。事實を枉げて迄は書けないのである。(筆者)

研究會の旨趣目的

滿洲社會事業研究會は其の名稱の如く研究を主とする間接機關でありますが研究と共にその研究の結果を發表し講演會その他の集會をも催ふし宣傳、鼓吹、報道、論評と相待つて實行促進に努力しますから直接に自ら實行しないでも漸次實行を促すことになります場合に依り又事業の性質によりては本會自ら實行するやうな事があるかも知れませんが本來の使命は間接的に助長、發達、進歩を計り社會問題に對する正しい理解力を一般に普及したいのであります夫れから本會は會員組織でありまして會員を別つて贊助員及び普通會員とし役員は會長一名、副會長二名、幹事長一名並に幹事若干名で外に顧問、相談役及び評議員若干名を置くことに成つて居ます評議員は贊助員の中より選擧し其の任期は二年です評議員會は會長において必要と認めたるとき又は評議員五名以上の請求ありたるとき開くのです評議員會は今日までに既に拾回開きました本會の經費は會費及び寄附金を以て之れに充て會費は贊助員毎月貳圓、普通會員同上壹圓です追つて沿線重要地に支部を設けます。

研究會の組織綱領

●關東州水産論………在大連、松丸孝三郎氏述

●秦皇島の港灣と諸關係………

●東三省主要官紳錄………滿鐵會社庶務部調査課

●ビアード博士東京復興に關する意見………

●都市の保健行政組織………財團法人東京市政調査會

●遼東詩壇(二卷)………大連振東學社內同人社

●支那民俗文庫(第三編)………大連支那民俗研究會

◉滿洲日日新聞、遼東新報、大連新聞、日滿通信、滿蒙、讀書會雜誌、海友、調査時報、滿洲建築協會雜誌、大陸、滿洲經濟時報、關東新聞、(以上は大連)◉大陸日日新聞、奉天新聞、奉天毎日新聞、滿蒙經濟新報（以上奉天）◉調査彙報(長春商議所)◉大乘(上海)◉調査彙報(朝鮮總督府)◉朝鮮地方行政、京城日報、朝鮮新聞(以上京城)◉臺灣時報、臺法月報(以上臺灣)◉滿鐵東亞經濟調査局經濟資料、東洋、支那、愛國婦人、人道(以上東京)◉東亞經濟研究(山口)◉福岡日日新聞(福岡)

毎月一回發行

定價表

普通號六拾錢、特別號七拾錢

冊數	定價	郵税
三箇月分	壹圓九拾錢	五錢
半箇年分	參圓八拾錢	郵税共
一箇年分	七圓五拾錢	郵税共

▲半年分及壹年分には特別號を含む▲諸代は總て前金拂の事▲郵券代用は一割増

廣告料

等級	半頁	一頁
特等	四拾圓	八拾圓
一等	貳拾五圓	五拾圓
二等	拾五圓	參拾圓
三等	拾圓	貳拾圓

●三回以上は割引可仕候●年極めは特別に御相談可致候

●〆切りは前月二十日限り

大正十三年十二月一日發行

發行人 山田武吉

編輯人 大內四郎

印刷人 太田信三

印刷所 小林又七支店 大連市大山通

發行所(電話五四二六番) 滿洲社會事業研究會 大連市松山町五番地七號 振替口座大連一二三九番

K.O

活版、石版、帳簿

和洋紙、板紙

荷札、海關申告書、約束手形、封筒、紙テープ、安全紙幣把、色分銀銅貨包、粉末繪具、陸軍ノ陸圖、海軍ノ海圖、朱肉、トイレットペーパー、其ノ他

石版意匠(包紙レッテル)調製

活字、印刷インキ、印刷木具類、印刷、製本諸材料、石版石、其ノ他

特約販賣品

- 屋印名刺臺紙
- 堀井式謄寫版
- 太陽簿記インキ
- 空氣應用自動消火器
- 國柱印粉末消火器
- 邦文 歐文 タイプライター
- 三菱造船所製ロネオ型文書函
- 酸素療器オキシヘーラー
- 洋蠟燭

大連市大山通

小林又七支店

電話 長六七 四〇九 四四六 二三四番